

第五十一回帝國議會
衆議院

勞働爭議調停法案(政府提出)外一件(勞働爭議調停法案(政府提出)治安警察法中改正法律案(政府提出)委員會會議錄(速記)第三回)

會議

大正十五年二月二十六日(金曜日)午後
一時十八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 森田 茂君

理事 杉浦 武雄君

理事 藏園三四郎君

理事 山口 政二君

高橋元四郎君

加藤 鯛一君

内ヶ崎作三郎君

比佐 昌平君

木暮武太夫君

山本 芳治君

山口 義一君

田中 隆三君

多木久米次郎君

原 夫次郎君

原 惣兵衛君

同月二十五日委員谷原公君辭任ニ付其
ノ補闕トシテ同日原夫次郎君ヲ議長ニ
於テ選定セリ

出席政府委員左ノ如シ

內務政務次官 俵 孫一君

內務參典官 鈴木富士彌君

內務書記官 赤木 朝治君

社會局長官 長岡隆一郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
勞働爭議調停法案(政府提出)

治安警察法中改正法律案(政府提出)
勞働組合法案(政府提出)

○森田委員長 ソレデハ昨日ニ續キマ
シテ開會致シマス

○清瀬委員 昨日ハ主トシテ合同組合、
即チ各種ノ職業、各種ノ産業ノ者ガ組
合ニ這入ッテハナラヌト云フ御趣意ハ

ドウデアルカト云フコトヲ中心トシテ
御尋ネ致シタルデアリマスガ、本日ハ
主トシテ、組合聯合、即チ數種ノ組合ガ

聯合ヲナシタ場合ニ、之ヲ法人ト御認
メ下サラヌト云フ理由ハドコニ在ルカ
ヲ御聞シタイト思ヒマスガ、先ヅ第一

ニ此組合法デ組合ヲ法人ト認メタコト
ガ勞働組合ノ保護ニナルト云フコトヲ、
大臣ハ本會議デ度々聲明サレテ居リマ

ス、忘レモ致シマセヌガ、原惣兵衛君ノ
辛辣ナル御質問ニ對シテモ、大臣ハ法
人ニシテヤルカラシテ、是ハ保護ニナッ

テ居ルト、斯ウ言フノデアリマスガ、法
人ト爲スコトガ、如何ナル點ニ於テ多
ク利益ガアルノデアリマセウカ、之ヲ

先ヅ御聞キ致シテ次ニ進ミタイト思ヒ
マス

○鈴木政府委員 清瀬サンノ御質問ニ
御答ヘ致シマスルガ、今回ノ政府提出
ノ法案デ法人主義ヲ採ッテ居リマスル

ガ、數年前憲政會カラ出シマシタ案モ
法人主義ヲ採ッテ居リマス、之ニ付テハ

各方面カラ色々ナ議論ガ出來ルノデア
リマスルガ、法人ニ致シマスルト權利
義務ノ關係ガ極メテ明白ニナルカラ、

其意味ニ於テ組合ノ活動上至極適當デ
ハナイカ、又組合ノ財産ノ所有權ノ問
題ニ關シマシテモ、極メテ其筋ガ明白

ニナルト云フヤウナ所カラ、法人ニス
ル方ガ宜クハナイカト云フ考ヲ起シタ
ノデ、若シ是ガ法人ニアラズシテ一ツ

ノ人格ヲ有セザル組合、勞働者ノ單ナ
ル集合ニ止ッテ居ルト云フコトデアリ
マス

ト云フト、財産其他ノ關係ニ付キ
マシテ非常ニ複雑ニナリマス、其點ハ
活動ニ甚ダ不便デハナイカ、斯ウ云フ

考ヲ起シタノデアリマス、併ナガラ又
他ノ方面カラ論ズレバ、之ニ變タ意見
モナイデハナカラウト存ジマスルガ、

先ヅ比較致シマシタ所、法人主義ノ方
ガ便利デアルト、斯様ニ考ヘタ次第デ
アリマス

「森田委員長、委員長席ヲ退キ藏
園理事代理著席」

○清瀬委員 諒承致シマシタ、即チ各
種ノ法律關係、殊ニ財産所有ノ關係等
ハ法人ガ宜シイ、ソコデ私共ガ此案ニ

付テ深キ疑問ヲ抱クノデアリマス、此
案ハ昨日モ申シマシタ通りニ我國ノ現
在ニ即シタ案デアアル、我國ノ現在ヲ見

マスルト云フト、財産ヲ所有シタリ或
ハ又出版事業ヲ致シタリ、職業紹介等
ニ志スト云フニハ、組合ノ聯合會ノ方

ガ私ハ數ニ於テモ、實ニ於テモ發達進
歩致シテ居ルモノデハナイカト思フ、
私ハ論理ノ戯レヲ致スノデハナイ、事

實ニ於テ斯様ニ考ヘテ居ル、昨日カラ
御註文申上ゲテ居リマス各組合ノ規
則、事業等ノ調査ハマダ出テ居リマセ

ヌカラ、私ガ此所デ引用致シマスル數
種ノ組合ヲ見マシテモ、先ヅ第一ニ日本
勞働總同盟、是ハ三萬以上ノ組合員ヲ包

括致シテ居リマスガ、其規則ノ第一條ハ
「各種ノ産業別職業別組合ヲ以テ組織
ス、尙ホ當分ノ間地方勞働團體ノ加入

ヲ承認ス」ト云フノデ、明ニ組合ノ聯合
體デアアル、而シテ此聯合體ガドウ云フ
コトヲスルカト云フト、規約ノ第三條デ

ハ教育部ヲ持チ、中央爭議部ヲ持チ、職
業紹介部ヲ持チ、宣傳部ヲ持チ、法律部
ヲ持チ、調査部ヲ持チ、出版部ヲ持チ、

國際部ヲ持チ、政治部ヲ持チ、而シテ會
ノ機關雜誌「勞働」ト云フモノヲ出版致
シテ居ル、法律關係ヲ整理シ、財産所有

ノ關係ヲ明カニシナケレバナラヌ必要
ハ、小サイ單一ノ職業組合ニ在ルカ、産
業組合ニ在ルカト云フノニ、事ハ全ク

之ニ反シテ、我國ニ於テ財産關係ノ中
心ヲ成シテ居ルモノハ、此聯合體ニ在
リマス、ソレカラシテ機械勞働聯合會

此機械勞働聯合會ノ規約ヲ見マシテモ「本會ハ機械工場勞働者ヲ以テ組織シ產業別又ハ職業別團體ヲ以テ組織ス」團體ハ單一デソレヲ組織シタモノガ今マデハ機械聯合會、ソレカラ印刷工組合聯合會、是モ煩雜デアリマスルカラ一々ハ讀ミマセヌケレドモ、印刷ニ從事スル勞働者ノ團體、之ヲ集メタモノガ有名ナル印刷工組合聯合會、デ是ハドウ云フコトヲ致シテ居ルカト云フト、毎月一回機關雜誌ヲ發行ニ適當ナル時期ニ出版ヲ致シテ居ル、サウシテ綱領ニ基ク運動ノ宣傳ヲ致シ加盟團體ノ連絡ヲ取り、大會ヲ開催スル、是等ノコトヲ遺ッテ居ルコトハ世間周知ノコトデアリマス、吾等門外漢ノ者、門外漢ト云フノハ勞働團體ニ直接加入シテ居ラス者ガ知ッテ居ル勞働組合ト云フモノハ、多ク聯合體デアリマス、彼ノ組合評議會モ其通り、日本組合聯合モ其通り、又私ノ住ンデ居ル大阪ニ本家ヲ持ッテ居ル海軍官業總同盟モ其通り、名古屋ニ在ル中部勞働組合聯合會モ其通り、デ現在ノ事實ニ即シテ、今ノ組合ニ對シ、今在ル所ノ組合ヲ眼中ニ置イテ、恐ラクハ近キ將來ニ於テモ斯ウ云フモノガ勞働組合トシテ日本ニ存在スルノダト云フ推測ヲ以テ規則ヲ作レバ、財産ノ所屬ヲ明ニシ、活動ノ狀態ヲ整理スルコト云フコトハ、實ハ區々デアルト云フト失敬デアリマスルガ、職業の組合、十八トカ十五人ノ職業組合、或ハ五十人位ノ產業

組合ガ出來マス、ソナモノヲ法人トスルヨリモ、實際我國ノ必要ハ今引用致シマシタ勞働總同盟デアリマス、組合評議會デアリマス、日本組合聯合ナリ、官業總同盟ナリ、何萬ノ會員ヲ持ッテチャント其處デ以テ印刷モヤル、出版モヤル、此頃ハ勞働教育ト云ッテ學校ノ經營モヤッテ居リマス、又或會ノ如キハ勞働會館ヲ造ラウト言ウテ今努力シテ居ルモノモアリマス、斯ウ云フモノコソ實ニ法人タル資格ヲ要求スルモノデアルニ拘ラズ、其聯合ニ向ッテハ法人タルコトヲ否認シテ、法人タルニ適セザル小サイ單一組合ニ向ッテ法人ヲ強ヒヤウト云フノハ、私共ハ甚ダ諒解ヲ致シ難イ點デアリマスルガ、何カ此點ニ於テ政府ニ深イ御趣意デモアリマスタラバ承リタイト思フノデアリマス、忘レモ致シマセヌガ、私ガ鈴木君ト奮闘シタ第四十四議會デアッタカ、鈴木君ガ説明ニナリマシタ案デモ、聯合體ヲ法人トスル方ガ宜イト云フコトガアリマス、私共ノ提案シタ案ニモ當時ハソレガアッタ、何モ筆ノ戲レデ之ヲ書イタデナクシテ、我國ノ勞働者ノ實際ヲ見テ、是ハ起案致シテ居ルノデアリマス、實際港デ船ヲ割ルト云フガ如キ今ノ場合ニ、是ガ拋棄サレルト云フコトハ甚ダ遺憾デアリマス、ドウカ委員全部ニ得心ノ行クヤウニ、此點ノ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○鈴木政府委員 如何ニモ御尤ナ意見

デアリマス、成程吾ミガ數年前ニ出シマシタ憲政會案ニハ、聯合ノ法人組織ヲ認メテ居ル次第デアリマス、當時私共モ其方ガ宜カラウト考ヘテ居リテマシタ、色々各種ノ機關ニ諮ツテ出シマサルト、兎角斯ウ云フコトガ有勝チニナリマスノハ洵ニ遺憾デアリマスガ併シ今回ノ政府提案ノ勞働組合法ニ於キマシテモ、事實上ノ聯合ハ認メルノデゴザイマス、之ヲ法人組織ニシナイト云フダケデアリマス、或ハ之ヲ法人ニ認メル方ガ宜シイト云フ御意見ハ是ハ頗ル傾聽スベキ御意見ノ一ツデアラウトモ存ジマス、併ナガラ最近ノ風潮ヲ見マサルト云フト、斯様ナ聯合組織ノモノハ、漸次單一組合ニ變ッテ來ルヤウナ現象モ亦認メラレルノデアリマス、併ナガラ既ニ是マデ發達シタモノヲ潰スノハ惜シイデハナイカト云フ御意見ハ御尤デアリマスルガ、是マデ今日聯合組織トシテ殘ッテ居リマスルモノハ、法人デハナイヤウニ私ハ承知シテ居リマス、而シテ日本勞働總同盟以前ニ於キマシテ、最モ大キナル勞働組合トシテ、世人ニ認メラレテ居リマスル所ノ日本海員組合デアルトカ、或ハ海員協會デアルトカ云フモノハ、可ナリ多數ノ組合員ヲ包容致シテ居リマスルガ、是ハ聯合ニナッテ居リマセヌ、御意見ノ點ハ大ニ尊重シテ考慮シテ見タイト思ッテ居リマス、尙ホ此點ニ付キマシテハ直接起草ノ任ニ當リマシタ社會局長官カラモ亦

御説明ガアラウト思ヒマス

○清瀬委員 私、討論ノ爲ニ討論スルノデハナク、事實サウ思フノデアリマス、事實上認メルト云フコトヲ仰ッシヤルガ、事實上ハ否認サレヤウト思ウテモ否認ハ出來ナイ、詰リ法律上認メルト云フコトニ於テ法人ガ成立致スノデアリマス、ソレカラ一體此勞働組合法ガ大キク言ヒマスレバ、世界ニ現ハレタノハドウ云フ譯デアアルカト云フト、財産ノ所有ト云フコトガ公認サレナカタ、英吉利デハ「トラスト」ト云フ形式デ以テ、組合ノ幹部ガ財産ヲ所有シテ居ッタケレドモ、勞働組合ハ之ヲ不法ナモノデアアルカラ「トラスト」ハ認メナイト云フノデ、組合ノ金ヲ横領サレタ時分ニソレヲ回收スルダケノ方法ガナカッタ、斯様ナ沿革カラシテ組合法ヲ認メル必要ガ起ッタノデアリマス、デアリマスルカラ今勞働組合ノ利害ノ爲ニ之ヲ制定スル、而シテ其利益ノ主ナル所ハ何處カト云フト、法人ダト仰ッシャル以上ハ、私ハ現在又ハ近キ將來ニ於テ、否定スベカラザル我國ノ勞働組合ノ實體ヲ變ヘテ、之ヲ法人トスル途ヲ御開キアランコトヲ希望スルノデアリマス、矢張之ニ牽聯致シマシテ、此附則デスガ、本法施行ノ際現ニ存スル勞働者ノ團體ニシテ勞働條件ノ維持又ハ改善ヲ目的トスルモノハ同一又ハ類似ノ職業又ハ產業ノ勞働者ノ團體ニ非サルモノト雖モ、本法施行ノ日ヨリ六月内ニ第四

條第一項ノ規定ニ準シテ届出ヲ爲スト
キハ本法ニ依リ設立セラレタル労働組
合ト看做ス」是ハ昨日問題ニ致シマシ
タ合同組合デナクテモ、矢張本法成立
以後存續シ得ルト云フダケデアツテ、此
規則アルガ爲ニ聯合組合ハ本法ニ依ル
モノダト云フコトニハ相成ラヌト思ヒ
マスガソレデ宜イノデアリマスカ

○鈴木政府委員 只今清瀬サンノ前段
ノ御言葉中ニアリマシタコトニ付キマ
シテ、一寸私カラ申上ゲテ置キタイト
思ヒマス、此組合法中ニ於キマシテ、勞
働組合ノ爲ニ利益ナ點ハ何處ニ在ル
カ、ソレハ主トシテ法人組織ニシタ點
ニ存スルモノデアルト云フコトヲ大臣
ガ申サレテ、ソレ以外ニハ何モ利益ハ
無イデハナイカト云フヤウナ御言葉デ
ゴザイマシタ、ソレモ無論一ツノ利益
ノ點デハアリマスルガ、若シ利益ノ點
ハドレトアルカト云フ疑ガゴザイマ
スルナラバ、其點ニ付テ少シ申添ヘテ
置ク方ガ將來便利ダラウト思ヒマス、
此組合法ニ於キマシテ、組合ノ利益、更
ニ直接ニ申シマスレバ、労働者ノ保護
ニナル點ハ何處ニ存スルカト申シマス
レバ、法人ニシタト云フコトモ一ツデ
アリマスルガ、第二ニハ第十四條ニ在
リマスル所ノ組合員タルノ故ヲ以テ爲
シタル解雇ノ意思表示ハ無効トシタ
ル點、第三ニハ第十五條ニ規定致シテア
リマスル所ノ組合幹部ノ行爲ニ付キマ
シテ免責規定ヲ設ケテアル點、第四ニ

ハ此組合ノ登記ニハ登録稅ヲ課セナイ、
斯ウ云フヤウナ四點ガ先ヅ主タルモノ
トシテ擧ゲ得ルコトガ出來ヤウト思ヒ
マス、是ハ誤解ナカラシムコトヲ望ム爲
ニ一寸申添ヘテ置ク次第デアリマス、
附則ノ點ニ付キマシテハ社會局長官カ
ラ御答申上ゲマス

○長岡政府委員 只今ノ清瀬君ノ御解
釋ノ通りデアリマス

○清瀬委員 サウスルトナンデスナ、
私モサウカトハ思ヒマシタガ、如何ニ
モ法治國トシテ壓制ナ政治ノヤウニ思
フノデアリマスガ、今私ノ指摘致シマ
シタ労働總同盟、組合評議會、日本組合
聯合會、官業總同盟、海運聯盟、印刷聯
合、斯ウ云フ風ナモノハ六箇月内ニサ
ウスルト聯合ヲヤメテシマツテ、平面的
ノ組合ニデモシナイト法人ニナレナイ
ト云フコトデアリマセウカト云フコト
ト、及サウ云フコトヲ彼等ガ爲スト云
フ御豫想デアルカト云フ二點ヲ併セテ
承ツテ置キタイト思ヒマス

○長岡政府委員 附則ノ解釋ニ付キマ
シテハ、先程清瀬君ノ御解釋ノ通りデ
アリマス、此附則ノアル爲ニ、現在ノ聯
合會ガ法人トハナレマセヌ、併シソレ
ガ法治國ノ壓制ト云フ御言葉デゴザイ
マシタガ、從前組合ノ聯合ガ保持シテ
居リマシタ狀態ヨリモ逆行スルノデハ
ナクシテ、從來ノ儘認メラレルノデア
リマス、唯組合ノ構成分子ガ法人トナ
リタケレバナリ得ルト云フダケデアリ

マシテ、此組合ニ平面的ノ單一組合ニ
ナレト云フコトヲ強制スルノデハアリ
マセヌ、尙ホ將來ノ見込ト云フコトデ
ゴザイマスガ、是ハ中々困難ノコトデ
ゴザイマス、或ハ從來ノ儘存續シテ行
キマスカ、或ハ最近ニ全日本鑛夫總聯
合會ガ聯合會組織ヲ改メテ單一組織ト
致シマシテ、日本鑛夫組合トナリマシ
テ、從來所屬ノ組織ヲ變更シタコトガ
アリマスルガ、サウ云フ風ニ總同盟ナ
リ、其他ノ團體ガ致シマスルカ、或ハ組
合聯合ノ構成分子デアリマスル者ガ、
組合ト云フモノヲ改メテ、組合ノ代表
者デアル自然人ヲ構成分子トスル一ツ
ノ組合ヲ造リマスカ、其邊ハ其組合ノ
幹部ナリ、其組合員ノ意嚮ニ依テ定マ
ルコトデ、私カラサウ云フ豫言ラシキ
コトハ一寸申上ゲ兼ネマスガ、是ハ誰
ト名ヲ指シテ申上ゲルコトハ一寸避ケ
タイト思ヒマスルガ、此法律案ガ修正
ナクシテ兩院ヲ通過スレバ、最近ニ全
日本鑛夫聯合會ノ執リマシタヤウナコ
トヲシテ見ヤウカト云フヤウナ話合ガ
アルヤウニ私ハ聞イテ居リマス、併シ
ソレハドノ組合ノ何人ガ言ツタト云フ
ヤウナコトハ公開ノ席デハ申上ゲ兼ネ
ルノデアリマス

○清瀬委員 是レ以上議論ハ致シマセ
ヌガ、唯立法機關デ日本ノ労働組合ヲ
造ルト云フノニ——私ガ前來舉ゲマシ
タ數個ノ大組合ト云フモノガ、ソレ
自身本法ノ適用ガナイト云フコトハ洵

ニ遺憾ト思フノデアリマス、成程法人
ニナラナイデモ、組合ハソレ自身認メ
ルト仰シヤルガ、法人ニナラヌト同時
ニ、第一條カラ第三十六條マデノ規則
ハ法人ニナラヌ組合ニハ少シモ適用ガ
ナイ、法人ニナラヌト云フコトハ、此組
合法ハ一ツモ適用シナイト云フコト、
同ジコトデアル、サウシマス、切角多
數ノ委員ガ斯様ニ寄り、又貴族院デモ
御審議ガアリマセウガ、サンザツバラ
汗ヲカイト作リマシテモ、實際ニ適用
サル、組合ト云フモノハ、吾々ノ眼中

ニ今マデ労働組合ト思ッテ居ラス——ト
申スト是等ノモノニ失禮デアリマスガ
餘リ耳目ニ觸レナカッタ部分ガ多クシ
テ、所謂日本労働運動ノ中堅トナリ、十
年間活動シ來ッタ所ノ大組合ト云フモ
ノニハ、其儘デハ少シモ適用ガナイト
云フコトニナルト、羊頭ヲ懸ゲテ狗肉
ヲ賣ルト云フコトニナリ、或ハ昨日生
レタ男ノ兒ニ、女ノ著物ヲ買ウタト云フ
ヤウニ、洵ニ見當違ヒニナルト思ヒマ
スカラ、政府ノ方ニ於テモ今日ハ閣
僚ガ御出ニナツテ居リマセヌガ、十分
閣僚諸君ニ御傳ヘ下サツテ、此點ハ御再
考ヲ願ヒタイト思フ、ソシナモノヲ作ッ
テモ役ニ立タヌ、然ラバ其聯合體ト云
フモノガ今カラナクナルカト云フノ
ニ、今ノ労働幹部ハ、社會局ニ態御出ニ
ナツテ、ドウ云フコトヲ言ツタカ知レマ
セヌクレドモ、私ハ聯合體ト云フモノ
ガ世界ノ大勢デアルト思ッテ居ル、單一

組合ノ大キナモノガ出來ルモノデハアリマセヌ、聯合ヲ造リ、又其聯合ヲ造リ、終ヒニハ世界中ノ勞働者ノ連絡團結ト云フモノ、目的ヲ初メテ達スルコトガ出來ルト云フコトガ、彼等ノ標語デアリマス、善イコトカ惡イコトカ知レマセヌガ、新シイ組合主義ノ標語ハサウデアリマスガ故ニ、是非ハ御再考ヲ願ヒタイト云フ希望ヲ殘シテ他ノ問題ニ這入リタイト思ヒマス、今鈴木參與官ガ利益ナリトシテ指摘サレマシタ法人ノ組織、十三條、十五條、登錄ノ法人ナドニ付テ私意見ガアリマス、殊ニ免責規定ノ十五條ト云フモノハ意味ヲ成サヌト思ヒマスガ、各論ニ關スル質問デアリマスカラ、其際ニ他ノ委員ヨリシテ御確メヲ願フコトニ致シテ置キマスルガ、唯組合法ノ質問ヲ終ルニ際シテ、一ツダケ御尋ヲ致シテ置キマス、第十九條ノ解散命令デアリマスガ、解散命令ガアツテ、解散シナイ場合ニハドウナルノデアリマスカ、罰則デモアルカト思ヘバ何モアリマセヌシ、是ハドウナルノデアリマセウカ、ソレヲ一ツ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○長岡政府委員 是ハ昨日ノ委員會デ一寸一端ヲ申上ゲテ置キマシタガ、十九條ノ主務大臣ノ解散命令ハ、唯法人デアル所ノ勞働組合ニ對シマシテ、其法律的存在ヲ否認スルダケデアリマシテ、事實上ノ解散ノ效力ハ之ニハナイト思ヒマス、即チ治警八條ノ警察命令トハ

違フノデアリマシテ、此十九條ニ依テ解散命令ヲ出シマシテモ、此法治ノ勞働組合トシテ——法人デナイ勞働組合トシテ存在スルコトニナラウト思ヒマス、勿論組合ガ自發的ニ解散スレバ別デゴザイマスルガ、其後ニ治安警察法八條ニ依テ、事實上ノ組合ノ解散ヲ命ズルカドウカト云フコトハ、其時ノ事情ナリ狀況ニ依テ、自カラ岐レルコト、思ヒマスガ、十九條ノ解散命令ハ法律的存在ヲ否認スルダケデアツテ、事實上ノ解散命令デナイト云フコトヲ御含ヲ願ヒタイノデアリマス

○清瀬委員 解散ト云フノハ讀ンデ字ノ如ク、散ラバスコトデ解散デアリマスルガ、法人ノ登記ヲ抹消スレバソレデ宜イト云フコトデアツテ、跡ハ存在シテ居ッテモ構ハヌト云フコトデアリマスガ、解散ト云フ文字ハ日本語デハサウデハナイノデ、ソレダケノ意味ナラバ登録ヲ抹消スベシト云フ位、宜イノデヤナイカト思ヒマスガ、如何デアリマセウカ、事實上解散シナイデモ宜イト云フヤウナコトデアッタナラバ、志願シテ法律上ノ解散ヲ受ケテモ宜イト云フヤウナ場合モアリマセウカ、是ハドウ云フ譯ノモノデアリマセウカ

資格ヲ享有シマシタ勞働組合ヲ指シテ居ルノデアリマスカラ、勞働組合ノ解散ト云フノハ、法人トシテ保護サレテ居ル勞働組合ノ解散ヲ命ズルノデアリマシテ、此組合ノ解散ヲ命ジマシタ結果、罰則ハゴザイマセヌガ、本法ニ依テ受ケテ居ッテ保護ハ享有スルコトハ出來ナイ、爾後ハ唯法律以外ノ事實上ノ勞働組合トシテ存在スルダケト云フ解釋デアリマス、事實ノ善惡ハ別ト致シマシテ、本法ノ精神ハ其處ニ在ルト云フコトヲ御諒承ヲ願ヒマス

○長岡政府委員 只今御話ノヤウニ、此解散ト云フ文字ガ日本語ノ上ニ於テ不適當デアルト云フ御考デゴザイマシタガ、此勞働組合ト書イテアリマスノハ、大體本邦ノ所謂勞働組合、即チ法人ノ

ニ依リマシテ訴願ヲ提起シ、尙ホ又行政訴訟ヲ提起スル途ヲ開イテゴザイマス、是ハ純粹ノ公益法人デモナク、又私益法人デモゴザイマセヌカラ、司法裁判所ニ出訴スルヨリ此方ガ結構デアラウト云フ考カラ、斯ウ云フ規定ヲ置イタ次第デアリマスルガ、尙ホ御質問中ノ第四條ノ届出ノ受理云々ノ問題デゴザイマスルガ、是ハ昨日モ申上ゲテ置キマシタガ、私ノ申上ゲ方ガ惡カッタカハ存ジマセヌケレドモ、第四條ノ届出ハ原則トシテハ全部受理スルノガ當然デアラウト考ヘテ居リマス、之ニ依テ地方官廳ニ於テ届出ヲ受理シナイトカ、受理スルトカ云フコトノ廣イ權限ヲ持チマスと云フト、地方官廳ガ事實上組合ノ解散以前ニ組合ノ存在ヲ認メナイ、解散以上ノ權限ヲ持ッコトニナリマシテ、第四條ノ規程ニ依テ、十九條ノ主務大臣ノ解散權ヲ地方長官ニ移スト云フヤウナ結果ニナリマシテ、是ハ容易ナラヌコトニナリマスカラ、第四條ニ於キマシテハ、此法律ニ命ジテアリマス形式的要件ヲ備ヘテ居ル限り、又其實質ガ勞働組合デアル限り、即チ行政上ノ錯誤若クハ欺偽ノ意思ガナイ限り、是ハ一旦受理スベシト云フコトニ心得テ居リマス、隨テ之ニ對シテハ救濟手段ヲ設ケテゴザイマセヌ

○清瀬委員 最後ニ此法規ノ適用範圍
〔藏園委員長代理委員長席ヲ退キ、森田委員長復席〕

デアリマスガ、是ハマア日本全國ニ適用サレマセウガ、樺太、臺灣、朝鮮、是ハ別ニ勅令ヲ發布シテ内地ノ法律ヲ其處ニ適用スル、斯ウ云フ組織ニナッテ居リマスノカ、今ノ政府ノ御方針トシテハ勅令ヲ以テ樺太、臺灣、朝鮮等ニ御適用ニナル御考デアリマセウカ、其方針ヲ伺ツテ置キマス

○長岡政府委員 是ハ甚ダ私カラ御答シ難イノデゴザイマス、御承知ノ通り私ハ内務省事務所管政府委員ヲ仰付ラレテ居リマス、他ノ人ノ所管ノ事務ヲ申上ゲテ宜シウゴザイマスカドウカ分リマセヌガ、ソレハ官僚式ダカラ宜イデヤナイカト斯ウ云フ御話ナラバ申上ゲテ差支アリマセヌガ、只今ノ所植民地ニ當分ノ間適用スル方針ハ持ッテ居リマセヌ、併シ是ハ植民地ノ當局者ト打合シタ次第デアリマセヌカラ、若シ私ノ答辯ガ間違ッテ居リマシタナラバ、後日訂正致シマスルガ、サウデアリマセヌケレバ、先ヅ只今ノ所ハ是ハ植民地ニ當分施行スル意思ハナイモノト斯様ニ御諒解ヲ願ッテ差支ナイト思ヒマス

○清瀨委員 調停法ノコトニ付テ伺ヒタイノデアリマス、ソレハ先ヅ第一ニ本會議ニ於テモ伺ツタノデアリマスガ、要領ヲ得マセヌ、我國ニ於テ初メテ調停法ガ施行サレルノデアッテ、是ガ實際ニ運用ガ出來ルト否トハ、將來ノ調停法ノ運命ニ關スルコト、思ヒマルガ、

此調停法ノ構成方法ハ、茲ニ第一條ニ列舉シテアリマスル六ツバカリノ場合——實際ハ五ツデアリマスガ、此事業ニ付テハ當事者ノ要求ナキニ拘ハラズ、政府ノ方デ強制的ニ調停ヲ開始スル、即チ調停開始ノ強制ト云フコトノアルノハ、是ハモウ事實デアリマスガ、大臣ハ自由主義デ強制デナイト仰シヤルケレドモ、調停開始ニ強制ノアルト云フコトモ事實デアアル、法文ノ示所デアル、而シテ強制的ニ開始サレタ場合ニデモ、第十九條ハ之ヲ置キマシテ、此程度ニ於テ同盟罷業ノ勸誘ト云フモノガ制限サレテ居リマス、一方デ同盟罷業ノ勸誘ヲ制限シテ置イテ、サウシテオ前達調停ニ應ジロ、斯ウ云フ風ナ構造デ初メテノ調停法ハ行ケルモノデア

ルカドウカ、是ガ吾々ノ甚ダ心配致ス所デアリマス、任意主義デボツ——當事者ノ意ヲ汲ンデ調停ト云フモノハ出來ルモノダト云フコトガ分ッテ、ソレナラバ一ツ其位出來ルモノナラバ一寸之ニ強制ノ文章ヲ入レヤウカト云フコトニ輿論ガ向イテ來テ、ソレナラバ任意調停開始ト云フコトヲ改メテ、強制的ノ調停ヲ開始シヤウト云フコトニシタイ、或ハ又強制的ニ開始シタ場合ニ少シモ同盟罷業ノ事ニ付テハ干涉シナカッタガ、イツノ罷業ニ迄制限ヲシヤウカ、斯様ニ私ハ漸進主義ノ方針ヲ以テヤラナケレバナラヌト思フノデアリマス、殊ニサラデダニ無産階級ハ多少ノ僻ミ根性

ヲ持ッテ居ル——今日ノ政治家ヲ以テ皆資本家ノ走狗ト叫ンデ居ル斯様ナ人ニ向ッテ、強制的ノ調停ノ開始ヲナサレテモ、矢張只今ノヤウナ法ノ構造デ以テ、實際ニ調停ノ效ガ擧ガルデアラウカドウカ、ソレ等ノ點ニ關スル御兩君ノ忌憚ナキ御見込ヲ先ヅ御聽キヲ致シテ、次ノ質問ニ移リタイト思ヒマス

○長岡政府委員 只今ノ御質問モ矢張多少御意見ト思ハレルヤウナ點ガ這入ッテ居ルヤウデゴザイマスガ、御説ノ中ニ在リマス斯ウ云フモノハ漸進主義ニ依テ行クノガ非常ニ適當デアアル、斯ウ云フ御説ヲ伺ヒマシテ、私モ大變意ヲ強ク致シタノデアリマスガ、此勞働爭議調停法案ハ、單純ニ之ヲ提出サレタト云フモノデアリマセヌノデ、治安警察法中改正法律案ト相並ンデ提出サレテ居リマスカラ、之ヲ併セテ御覽ヲ願ヒタイノデアリマス、ト云フノハ今迄十七條ニ——治安警察法ノ十七條ニ於テハ、如何ナル事業ニ付キマシテモ此同盟罷業ノ全部ト云フモノヲ禁ジテ居ッタノデアリマス、今回ノ十九條ハ治安警察法ノ十七條ノ變體デアアル、斯ノ如ク論ゼラレル方モアリマスガ、假ニ十九條ガ十七條ノ變體デアルト云フヤウナ御觀察ニ——一步ヲ譲ッテ見マシテモ、此適用ノ範圍ハ今迄ハ總テノ勞働爭議デゴザイマスガ、今回ノ十九條ハ——今回ノモノハ僅ニ五ツ六ツノモノニ限ラレテ居ル、之ニ從事シテ居リ

マス勞働者ノ數ト云フモノハ、數字モ持ッテ參リマシタガ諄々シイノデ略シテ置キマスガ、極ク少數ノ範圍ニ止ッテ居ル、大部分ノ產業ト云フモノハ十七條ノ桎梏ヲ免レル譯デアリマス、又今迄ハ同盟罷業ノ煽動誘惑ト云フコトニナッテ居リマスガ、此度ハ僅ニ此五ツ位ノ事ニシカ適用ガナイ、此點ニ付テ範圍ガ小サクナッテ居リマス、又適用サレル人ニ付キマシテモ、今迄ハ煽動誘惑致ル者ハ先ヅ別トシテ、第三者ガ煽動誘惑ヲシタ場合ノミニ限ルト云フコトニナッテ居リマスノデ、假令一步ヲ譲リマシテ、十九條ハ十七條ノ殘ツタモノデア

ル、形ヲ變ヘタモノデアルト云フコトヲ容認致シマシテモ、其殘ッテ居リマス部分ハ其制限ヲ受ケマスカラ、九牛ノ一毛ト申シマスカ、大海ノ一滴ト申シマスカ、僅カノ部分ニ限ラレテ居ルト考ヘマス、是ハ即チ清瀨君ノ漸進主義ト云フコトニ當嵌マルト云フコトハ言ヘルノデアリマス、唯勞働立法トシテ色々學說上極ク一貫シタ議論ヲ以テスレバ、色々ソレハ御批評モゴザイマセウ、又色々ナ議論ハ出ルトハ考ヘマスルガ、矢張是等ハ只今清瀨君ノ御説ニ在リマシヤウニ、社會ノ事情ヲ考慮致シマシテ、餘リ突飛ナ進ミ方ヲシテモイカズ、退クコトモイカヌ、先ヅ漸進主義ヲ以テ漸次々々ニ行クト云フコトガ宜

カラウト云フ考カラ行クト、此十九條ト云フモノハ決シテ新ナル負擔ヲ加ヘタモノデモナク、新ナル制限ヲ加ヘタモノデモナイ、先ヅ一般ノ公衆ノ日常生活ヲ脅カサレルヤウナモノヲ保護スルト云フ意味ニ於テ出來テ居ルノデ、之ニ依テ大變障害ヲ及ボスト云フヤウナコトハ先ヅ無イカノヤウニ私共ハ考ヘテ居ル次第アリマス

○清瀨委員 從前ノ治安警察法十七條ト、勞働爭議調停法トハ關係ガナイモノデアルト云フコトヲ、先刻モ度々御答辯ニナツタデアリマス、是ハ可ナリ官僚的ノ聲明デアルト考ヘテ居ツタガ、今明ニ十七條ト十九條ハ聯絡ガアルコトヲ明白サレタデアリマス、此點ニ於テ寧ロ御淡白ナルコトニ敬服致シタデアリマスガ、サウナツテ見マスト

假定デモ同ジコトデアリマス、サウスルト此處デ十九條ト十七條ノ比較ヲ一言シナケレバナラヌ、是モ從前ハ誘惑煽動シタ者ハ罰セラレル、今度ハ誘惑煽動ト云フ言葉ハ惡イト云フノデ、條文ニ勸誘ト書イテアル、是ハ所謂世間ノ輿論ト言ヒマスカ——何レ方ニモサウ云フコトヲチヨイ——申ス人ガアリマスガ、私ハ是ハ甚ダ遺憾ニ思フ、誘惑煽動ト云フノハ、勸誘ノ中ノ質ノ惡イモノデアルト云フコトハ何人ニモ考ヘラレル、誘惑デアリマスカラ、人ヲ惑ハスノデアリマス、煽動ト云フモノハ、煽ノ字ハ火扇ニ扉、「カンテキ」ニ火ヲ

入レテ下カラ煽グト云フ字デアアル、本當ニ罷業ヲスル心ノ無イ奴ヲ、バタ／＼煽ギ立テ、煽動シ、或ハ虚實ヲ取交ゼテ他人ヲ惑ハス、サウ云フコトヲシタ場合ニ初メテ罪トナルノデアアル、ソレヲ斯ウ奇麗ナ勸誘ト云フ文字ニナルト、煽動の分子、誘惑の分子ヲ含マナイ、單純ニ同盟罷業ヲシヤウトカ、無色透明ナ、罷業ヲヤリマセウトカ云フ一言デモ直ニ罰罪ヲ被ルコトニナルノデアリマス、能ク世間ノ人ハ、誘惑煽動ト云フノハ言葉ガ惡イ、勸誘ト云フノハ進歩シタ言葉ダト云フ風ニ考ヘルノデアリマスガ、言葉ノ進歩ハ事實ノ退歩デア

ル、言葉ノ方ガ高クナレバ、事實ノ方ハ低クナル、言葉ノ惡イ方ガ、罪トシテ論ゼラレル場合ニハ輕クナル、刑法ナドデモ、惡イ言葉ノ方ガ奇麗ノ言葉ヲ使タ場合ヨリ罰罪ニ洩レルコトガ多イ、輕イ警察犯處罰令ノヤウナモノデハ、小便ヲシテサヘ罰セラレル、デアリマスカラ奇麗ナ言葉ヲ用ヒタト云フコトハ、勞働者ニ取ツテハ罰セラレル場合ガ殖エテ來タト云フコトニナル、故ニ是ハ漸進デナクシテ漸退デハナイカト考ヘマス、此點ニ付テ如何ナル御意見デアリマスカ、伺ツテ置キタイト思ヒマス

○長岡政府委員 只今ノ誘惑煽動ト云フ事ニ付テノ御質問デアリマスガ、今マデノ訴訟事件ヲ見マスルト、辯護士ノ方ハ多ク誘惑煽動ト云フ文字ヲ、只今清瀨君ノ御説明ニナリマシタヤウナ

趣意ニ解シテ辯護ヲナサツテ居リマス、所ガ大審院ノ判決例ニ於テハサウナツテ居リマセヌ、茲ニ大審院ノ判決例ヲ持ッテ參リマシタ、一々朗讀ヲスルモ繁雜デアリマスカラ、其一二ヲ申上ゲマス

ト、是ハ大正十四年十月一日ノ判決ヲゴザイマスガ、此時ニ辯護士ノ方ハ「誘惑トハ作言ヲ弄シ其ノ他相手方ノ自由ナル意思決定ヲ不能ナラシムル程度ノ勸誘ナリト爲サザルベカラズ」斯ウ云フ風ニ論ジテ居リマス、所ガ大審院ノ判決デハ「治安警察法第十七條ニ所謂誘惑ニハ其ノ方法程度ニ付特ニ制限ナキモ作言又ハ詐術ヲ用ユルト又單ニ甘言ヲ以テスルト將其ノ他ノ方法ヲ以テスルトヲ問ハス之ニ因リ他人ヲ誘引惑亂シテ其ノ自由意思ノ決定ニ影響ヲ及ボサシムヘキ場合ヲ包含スルモノトス」斯ウ云フヤウニ宣告シテ居リマス、又大正十一年六月六日ノ判決ニ依リマシテモ、「同盟罷業ヲ遂行スル爲勞務者ヲシテ勞務ヲ停廢セシムル目的ヲ以テ他人ニ對シ勸誘説得シタル場合ニ其ノ勸誘説得ニ關スル告知カ他人ノ認識ニ達スルニ於テハ治安警察法第十七條ニ所謂第二號ノ目的ヲ以テ他人ヲ煽動シタルモノニ該當シ告知ヲ受ケタル他人ノ心理上現實ニ如何ナル影響ヲ生シタルヤニ關係ナク其ノ行爲ハ同法條違反タルヲ免レサルモノトス」斯ウ云フ

風ニ大審院ハ解シテ居リマシテ、誘惑煽動ト云フ文字ハ所謂勸誘説得ト同ジヤ

ウニ判決ヲ下シテ居リマス、ソレデアリマスカラ此文字ノ爲ニ違反事件ニ非常ナ影響ガアルト云フコトハ、吾々ハ少シモ考ヘテ居リマセヌ、唯誘惑煽動ト云フト、如何ニモ其對象物、目的物、同盟罷業ガ惡事デアアルカノ如キ感ヲ與ヘル危險ガアリマスカラ、同ジ意味ノ文字デアアルナラバ、誘惑煽動ト云フ、如何ニモ惡イ事ヲ勸メルト云フヤウナ文字ヲ用ヒルヨリ、勸誘ト云フ語弊ノ無イ文字ヲ使ツタ方ガ宜カラウト云フノデアリマシテ、此文字ノ變更ノ爲ニ實質上ニ影響ヲ及ボスト云フヤウナ考ハ毛頭持ツテ居リマセヌ

○清瀨委員 是ハ圖ラズ非常ニ重大ナル問題ニ逢著シタデアリマス、古キ時代ノ大審院ノ判事諸公ガ如何ニ考ヘテ居ツタカハ此處デ論ズル必要モアリマセヌ——縱令判決ハ新シクアリマシテモ、古キ時代ノ裁判ヲ踏襲シタ考デアリマス、横田大審院長ニナリマシテカラ、判例ハ大分變更ノ傾向ニナツテ居リマスガ、大體ニ於テ古キ時代ノ裁判ヲ踏襲致シマシテ理由ヲ解シ、同盟罷業ノ如キハ惡事ノ如ク解シ、單純ナル勸誘ハ之ヲ寬容シテ犯罪トシナイ、彼等ノ頭ハ同盟罷工ヲ誤解シ、同盟罷工ノ價值判斷ヲ誤ツテ居ル、是ハ日本バカリデハナイ、何處ノ國デモ初メハ皆サウデアツタ、段々考ヘテ見ルト、今日ノ經濟組織デ、自分一個デアルナラ宜イト云フ事ガ、連レテ誘ウテヤツタカラ惡

ト云フ事ガ、連レテ誘ウテヤツタカラ惡

イト云フ筈ハナイ、契約ヲ自由ト云フケレドモ、資本金ノ方ハ資本ヲ團結シテ居ルガ、労働者ニモ團結ガナケレバ、圓滿ナル取引ガ出来ナイデヤナイカ、此法ノ總テヲ研究シテ居ル委員會ニ於テ、同盟罷業權ノ講釋ハ私ハ致シマセヌケレドモ、平和手段ニ依ル同盟罷業ヲ禁止スルト云フ國ハ、私ハ今日デハナイト思フ、一番後レタ亞米利加ニ於テモ其通りデアラウト思フ、デ九牛ノ一毛ト申サレマス、其御調査ガアレバ拜見ヲ致シタイ、今日本ニ於テ、蒸氣電氣ノ動力ヲ使フ事業、交通ノ事業、水道ノ事業、是等ノ事業ニ從事シテ居ル者ノ數ハ中ミ九牛ノ一毛デハナイト思ヒマス、況ヤ軍需品ニ關スル労働者、官業労働者ハ中ミ多數アリマス、ソレヲ九牛ノ一毛ト云フ政府委員ノ御言葉ハ、是ハ修辭ノ上ノコト、思フテ、別段答メハ致シマセヌガ、サウ云フ労働者ハ、寧ロ今日デハ非常ニ多イト思フ、一般自由労働者モ澤山アリマスケレドモ、茲ニ擧ゲテアル一カラ六マデノ者ハ澤山アリマス、其數ノ多少ハ別ト致シテ、少シモ誘惑モ伴ハズ、煽動ノ事實モ伴ハズ、其事ニ於テハ誠ニ平穩デアツテ、而モ同盟罷業ヲ禁ゼラレルト云フ精神ハ、是レ即チ同盟罷業ヲ罪惡視シテ居ルト同ジデアル、是ガ即チ労働法ノ出發點ニ於テ私共ノ考トハ異ツテ居ル、労働組合法ヲ作ル、爭議調停法ヲ作ルト仰シヤツテモ、罷業ト云フコトニ付テノ價值判段ヲ正確ニ

定メテ置カヌト、總テノ法規ガ全ク無効ニナルト思フ、之ヲ爲ス手段ガ惡カッタリ——之ヲ爲ス目的ガ惡カッタリシテハ無論宜シクナイ、日本ノ國家ノ存亡ノ場合ニ軍需品ヲ製造シナイトカ云フヤウニ、手段ガ惡カッタリ目的ガ惡カッタリシタナラバ別デスガ、手段ニ於テモ目的ニ於テモ單純ナル勸誘デアツテ、何等咎ムベキ事ガナイ、今晚一緒ニ食事ヲシヤウ、一緒ニ芝居ヲ觀ニ行カウト言ツテ、連レテ誘フノハ即チ共同ノ行爲ヲスル所以デアリマス、是ハ自分ノ自由意思ニ屬スル、労働ヲシヤウガ、シマイガ、ソレハ其人ノ自由デアル、人間最高ノ自由意思デアリマス、故ニ假令九牛ノ一毛デアラウガ、百牛ノ一毛デアラウガ、日本ニ於テ平穩ノ手段ニ依テ同盟罷業ヲスルコトヲ禁ゼラレ、ソレヲ犯シタモノハ罰ヲ受ケルト云フコトニナルト、是ハ政府ノ重大政綱デアルト思フ、財政ノ改革ト相並ンデ、兩方ニ今カラ進發スル門出デアルト云フ門出ニ、非常ニ吝ヲ付ケハセヌカ、吾ハ不偏不黨トハ申スモノ、實ハ既成政黨排斥デ、又政黨内閣ニモ排斥スル立場ヲ持ツテ居リマスガ、今日ニ至ル迄多少御政策ノ行ハレンコトヲ努メテ居ッタ、然ルニ此労働法ヲ御實行ナサリ、今カラ労働立法ヲナサリ、今迄ノ個人主義經濟、個人ノ自由ヲ認メ、總テノ労働者ヲ壓迫スルコトハ間違ッテ居ル、例ヘバ海軍ノ人ガ製艦計畫ヲスル時分

デモ、初カラ大キナ軍艦ヲ造ルト議員ノ反對ニ會フカラ、一番初ハ一寸頭ヲ出スダケニスルト云フコトヲ、從來日本デハ度々ヤツテ居ッタ、此組合法ヤ爭議調停法モ、區々タル法律デハアルガ、是デ労働組合ノ團結權ヲ認メルコトハ、實ハ同盟罷業權ヲ認メタノダ、労働條件ノ維持改善ト仰シヤルガ、實ハ労働組合ノ目的ハ同盟罷業ニ在ル、罷リ違ヘバ同盟罷業ヲシテ、労働者ノ地位ヲ改善ヲシヤウト云フコトガ、隠レモセヌ労働組合全般ノ目的デス、日本ノ六百ノ労働組合ヲ見マシテモ、總テ此労働爭議ヲ是認シテ居ル、同盟罷業ヲシナイ組合ハ、ソレハ救済組合デアツテ、労働組合デハナイ、其労働組合ヲ認メラレタ以上ハ、同盟罷業ヲ惡事デナイト云フコトヲ、此方ノ法律デハ認メラレテ居ル、所ガ此方ノ法律デハ九牛ノ一毛ナリトシテ、同盟罷業ヲ惡事ナリトシ、目的ガ惡クナイ場合デモ、手段ガ惡クナイ場合デモ、單純ナ勸誘デモ、之ヲ禁ズルト云フ立法ハ、是ハ今ノ内閣ノ門出ニ非常ニ吝ヲ付ケヤセヌカ、今デモ治安警察法第十七條ニハ、勸誘煽動ガ惡イノダ、誘惑煽動スルカライケナイノダト云フノデ、労働者ニ吾ミハ辯解シテ居ッタ、最近ノ犯罪ガドウカ知ラヌガ、サウ云フモノコソ九牛ノ一毛デアツテ、日本ノ社會思想ヲ惡化ハシナイ、先程大審院云々ト仰シヤツタガ、大審院ニ行ク裁判ノ數ハ一年二十件トアルモノデハナイ、ケレドモ法規ノ上カラ吾ミノ列席シテ居ル議會ニ於テ、平穩ナル同盟罷業デモ矢張禁ゼラレ、犯ス者ハ罰セラレルト云フコトニナルト、此議會ハ同盟罷業ハ罪ナリ——右ニ組合ヲ與ヘ、左ニ同盟罷業ヲ罰スルト云フコトニナリマス、此労働法ノ精神ハ私ハ貫ケヌコト、思ヒマス、誘惑煽動ノ文字ガ勸誘ト云フ文字ニ變タト云フコトハ、同盟罷業ハ手段サヘ惡ケレバ罪ニナルケレドモ、手段サヘ善カッタナラバ罪ニナラヌト云フコトハ、今迄ノ折角ノ法規ノ根柢ガ覆ヘサレタノデハアルマイカ、斯様ニ急キ込ンデ申スト御諒解ガ惡カラウト思ヒマスカラ、此委員會モマダ數日繼續サレルト思ヒマスカラ、篤ト私ハ御考慮ヲ願ヒタイト思ヒマス、假令九牛ノ一毛デモ、平穩ナ手段デテ同盟罷業ヲシタ者ガ罰セラレルト云フコトニナルト、罷業權ノ存在ヲ否定セラル、コトニナル、ソレカラシテ矢張十九條ノ「現ニ爭議ニ關係ナキ者」此文字ノ御解釋ヲ——是ハ詳シク箇條ヲ擧ゲテ申シマセヌカラシテ、自發的ニ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○長岡政府委員 曩ニ私ガ形容詞ヲ用ヒタ爲ニ、大變御叱リヲ受ケマシタガ、其言葉ガ惡ケレバ取消シマス、私ノ九牛ノ一毛ト申シタノハ、労働者ノ數ニ於テ申シタノデハナク、推定ノ上ニ於テ非常ニ少クナツテ居ルカラト云フ輕イ意

味デ申上ゲタコトヲ御承知ヲ願ヒタイ、又煽動誘惑ト云フ文字ト加入ト云フ文字ガ、非常ニ強ク御響キニナツテ居ルヤウデアリマス、提案ノ趣旨トシテ兩方同ジ意味、一ツモ違フタ意味ト認メテ居リマセヌ、是ハ私カラ申上ゲテハ僭越カハ存ジマセヌガ、加入ト云フ文字ガ御氣ニ入ラナケレバ、煽動誘惑ト云フ文字ニ變ヘテモ、是ハ實體ニ一ツモ變リガナイカラ、恐ラクハ政府モ同意スルデアラウト云フ想像ヲ持ツテ居リマス、併シ是ハ私ガ今日此所デ僭越ニ申上ゲル時機デアアリマセヌ、ソレカラ當事者ノ御尋デアリマシタガ、此十九條ノ「現ニ」ト云フ文字ヲ申シマスガ、是ハ昨日來御議論ニナリマシタ行政上ノ問題ト違ヒマシテ、刑罰法規ノ事ニ觸レテ居リマスカラ、一言デモ私ガ説明ヲ誤リマスト申譯アリマセヌカラ、司法省及法制局ト打合セマシタ結果ヲ讀ミマスカラ、御聽取ヲ願ヒタイ「一ツ」現ニ「トハ第二條ノ規定ニ依リ通知アルトキ」現ニ「ノ意味ナリ、ソレカラ一ツ」其爭議ニ關係ナキ者「トハ特定ノ爭議ニ關係ナキ者ヲ指ス、換言スレバ特定ノ使用者ト之ニ雇傭セララル、勞働者(勞働者ノ解雇ニ付テノ紛議ナルトキハ解雇セラレタル勞働者ヲ含ム)其間ノ紛議ニ付テハ其使用者(使用者ノ利益ヲ代表スル者ヲ含ム)及其勞働者(若シ其勞働者ガ其時勞働組合ニ加入シ居リ且ツ組合ガ爭議ニ關與シ得ル時ハ其勞働組合ノ

幹部ヲ含ム)以外ノ者ヲ指ス、使用者ト勞働組合トノ紛議ナルトキハ其使用者(使用者ノ利益ヲ代表スル者ヲ含ム)及其組合ノ幹部(其使用者ニ雇傭セララル組合員ヲ含ム)以外ノ者ヲ指スモノトス、」ソレデ宜シウゴザイマスカ

タガ、同盟罷業其モノハ、今迄モ禁ジテ居リマセヌ、又今回ノ提案ニ於テモ、罷業其モノヲ禁ズルト云フ規定ハアリマセヌ、其點ダケハ附加ヘテ御話申上ゲマス

爲ニ、今ノ同盟罷業其モノニ付テノ御議論モ出マシタガ、現在ノ治安警察法十七條ニ於キマシテモ、是ハ明治三十六年ノ帝國議會ニ提出サレタ當時ノ速記録ヲ見マシテモ、當時ノ内務書記官有松英義氏ガ政府委員トシテ、同盟罷業其モノハ決シテ法ノ禁ズル所デハナイ、同盟罷業其モノハ惡事トシテハ居ラスト云フコトヲ説明シテ居リマスカラ、無論之ニ逆行シテ、今日ノ法制ニ付テ同盟罷業其モノヲ罪惡視シ、之ヲ惡事トスルト云フ觀念ハ毛頭持ツテ居リマセヌ、此事ハ本會議ニ於テモ大臣カラ二回ニ互テ申上ゲテ居ルト思ヒマス、私ノ言葉ガ足りナクテ、誤解ガアツテハ申譯ガナイト思ヒマスカラ、重ネテ附加ヘテ置キマス

○清瀨委員 後デ拜讀致シマス、是ハ大切ナ事デアリマスカラ、何レ速記モ出來セウガ、間ニ合マセヌカラシテ、寫シマシテ能ク熟讀致シテ見マスガ、一番問題ニナルノハ爭議ヲ爲ス勞働者ノ一部又ハ全部ガ、或ル組合ニ屬シテ居ル場合ニ、其組合ノ幹部ハ現ニ關係アル者トナルノデスカ、無キ者トナルノデスカ、一寸アッタヤウデスカ、括弧ガ多クテ聽取レマセヌデシタ

○長岡政府委員 イヤ御聽取リ難カッタ點ハ恐縮シテ居リマス、是ハ大體ニ於キマシテ、過日本會議ノ席上ニ於キマシテ、大臣ヨリ其文字ノ意味ヲ簡單ニ申上ゲマシタガ、勞働爭議ノ際ニ勞働組合ガ現ニ爭議ニ關係シテ居ル者其「現ニ」トハ第二條ノ規定ニ依リ通知ガアッタトキノ現ニ、其現ニ勞働組合ガ紛議ニ關係シテ居ッテ、且ツ其幹部ガ爭議ニ關係シテ居ルト云フ場合ニハ、此勞働組合ノ幹部ハ爭議ニ關係ナキ者デハナイ、關係アル者、斯ウ云フ解釋デス、尙ホ今鈴木參事官カラ御注意ガアリマシタガ、先程ノ御質問中ニ、何ヤラ此法文ニ於テ同盟罷業其モノヲ禁ジテ居ルヤニ聽取レルヤウナ御話モゴザイマシ

○清瀨委員 私ハ罷業ガ禁ジラレテ居ルトハ言ハナイ、何等ソレ自身ガ惡事ト云フコトヲ聯想シナイ、單純ニ勸誘シテ居ッテモ、矢張罰セラレルト云フコトニナルト、同盟罷業ハ惡事デアルト云フ意味ニナリハセヌカ、デスカラ能ク私ノ言フコトヲ速記モ出來マセウカラ御覽ノ上、是ハ勞働ニ關スル重大ナ事デアリマスカラ、餘リ聲ヲ大ニスルヤウデゴザイマスケレドモ御研究ヲ願ヒタイ、今ノ御説明ノ中デノ幹部ハ分リマシタガ、勞働組合自體ハドウデアアルカ、法人タル組合自體ハ現ニ關係アルモノデアリマセウカ、無キモノデアリマセウカ

○清瀨委員 尙ホ問題ヲ變ヘマシテ此調停ハ、九名寄ツテ調停スルコトニナツテ居ル、即チ勞働者側カラ三名ヲ選ビ、資本案側カラ三名ヲ選ビ、此各ノ三名、即チ此六名ガ更ニ三名ヲ選ビ、其三名ガ選バレナイ時分ニハ官選トナツテ居ル、斯ウ云フコトデアリマスガ、選ブ時ハマダ爭議開始ノ直後デアリマス、其時分ニ雙方カラ選ンダ委員ガ、實際ニ於テ一致シテ三名ノ者ヲ選ビ得ルナド、云フコトハ、私ハ想像ガ出來ナイ事ダト思ヒマス、サウスルト多クノ場合ハ、資本案カラ三名ト、勞働者側カラ三名ト、他ハ官選ト云フコトニ歸シテシマフドラウト思フノデアリマス、ソ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

○長岡政府委員 此場合勞働組合ト私ガ申上ゲマシタノハ、只今提出シテ居リマスル勞働組合法案ノ所謂法人タル勞働組合ノミデハゴザイマセヌ、實質上ノ勞働組合デアリマスレバ、勞働組合法案ニ認メテアル法人タル組合デアリマシテモ、其以外ノモノデアリマシテモ、此爭議ニ現ニ關係シテ居ル勞働組合デアリマスレバ、其又幹部ガ現ニ勞働爭議ニ關係シテ居リマスレバ、總テ關係アルモノ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ居リマス、尙ホ又私ノ申シ方ガ惡イ

コデ官選委員ノ任務ト云フモノハ、甚ダ重クナツテ參ルノデアリマスガ、併ナガラ多クノ場合、此爭議調停ノ成立スルヤ否ヤト云フコトハ、當事者殊ニ勞働者側ニ於テ調停委員ヲ信ズルヤ否ヤト云フコトニナル、即チ官選委員ヲ信ズルヤ否ヤト云フコトニナル、官選委員ヲ信ズルヤ否ヤト云フコトハ、政府ヲ信ズルヤ否ヤト云フコトニナル、今ノ我國ノヤウナ状態、即チ普通選舉ハ追ッテ布カレレデアリマセウガ、労働黨ノ成立ヲ困難ニスルト云フヤウナ事情ノアル場合ニ於テハ、官選委員ト云フモノハ、私ハ比較的疑ヲ受ケルモノデハアルマイカト思ヒマス、全然後ノ三名ト云モノヲ加ヘルト云フコトガ、私ハ爭議ノ調停ノ成功ヲ甚ダ困難ナラシムルモノ、如ク考ヘマス、熟他ノ立法例ヲ見マシテモ、斯様なモノモアリマスルシ、又外ニ一名ノ中立議長ヲ選ブト云フヤウナ法制モアッタノデアリマス、是等多數ノ法制ヲ御研究ノ上、之ヲ御採用ニナツタヤウデアリマスガ、此三名ノ者ヲ當事者雙方カラ選ブコトガ容易デアルカドウカト云フ點ト、又我國ノ現状ニ於テ、左様な者ヲ選ンデ調停ガ出來ルト御考ニナルノデアルカ、即チ是等ノ審議ノ御經過ヲ伺ッテ置キタイト思フノデアリマス

○鈴木政府委員 只今ノ御疑念ハ至極御尤モトモ思ヒマスガ、政府トシテハ御示シノ三名ノ委員ノ選定ハ、決シテ容易デアルトハ申シマセヌガ、左程難イ事デナイノデハナイカト考ヘテ居リマス、即チ労働者側ニ偏セズ、資本家側ニ偏セズシテ、極メテ中正ナル立場ニ於テ、且労働界ノ知識ニモ富ンデ居ルヤウナ人モゴザイマス、又此労働界ノ實際ヲ知ッテ居ル人モゴザイマス、名前ヲ舉ゲルコトハ如何カト存ジマスガ、或ハ福田徳三君デアルトカ、或ハ只今御質問ニナツタ清瀬君ノ如キモ、適切ナル人デアラウト思ヒマスガ、斯様な方方カラ御選ビニナツタナラバ、必シモ難イ事デハナイヤウニ思ヒマス、隨テ其人選ガ既ニ出來上ル以上ニ於テハ、其調停モ亦比較的公正ニ行ハレルモノデハナイカト考ヘテ居リマス

○原(夫)委員 此場合長岡長官ノ御答ニ付テ確メテ置キタイト思ヒマス、調停法ノ十九條ノ「現ニ其ノ爭議ニ關係ナキ者」、「現ニハ宜シイノデスガ」其ノ爭議ニ關係ナキ者」ノ範圍如何ト云フ問題ニ付テ、長岡長官ガ御答ニナツタ所ニ依ルト、組合側ノ幹部ノ如キ者ハ、是ハ關係アルモノデアアル、又組合員全體モ組合カラ爭議ヲ出シテ居ルト云フコトデアアルナラバ、ソレモ關係アル者デアアル、斯ウ云フ御答デアッタノデスガ、私ハソレヲ聽イテ居ッテ甚ダドウモ其答辯ノ據ル所ニ苦シンダノデアリマスガ、爭議ニ關係アルナイト云フコトハ、爭議ガ起レバ當事者ガ玆ニ決マル、當事者ガ決ツタナラバ——爭議ガ開始ニ

ナレバ通知ヲ爲ス、其範圍ハ即チ當事者ト云フ文字デアアル、サウスルト其當事者以外ノ、或ハ幹部デアアルガ故ニ關係アル者ト爲ス、若クハ當事者ガ組合ニ屬シテ居ルカラ、組合ト云フモノガ關係アルモノデアアルト云フ御解釋ハ、何所ニ根據ヲ置クノデアリマセウカ、清瀬君ノ御質問ハ極メテ重大ナル關係ガアリマシテ、私モ聽カントスル疑點デアッタノデアリマスガ、其答辯ニ付テ疑ヲ抱イテ居リマスカラ、御確メ致シタイト思ヒマス

○長岡政府委員 先程私ノ朗讀シタ此文字ノ解釋ヲ御手許ニ差上ゲタナラバ、一番明カデアアルト思ヒマスガ、「現ニ」ト云フ文字ハ御諒解デアアルト云フコトデアリマシタガ、第二條ノ通知ノアツタ場合ニ、其労働組合ガ爭議ニ關與シテ居ルコトガ實際ニ於テ多イマスカラ、將來モサウデアラウト思ヒマス、即チ其實情ヲ申上ゲマス、組合ニ從屬シテ居ル所ノ労働者ガ、愈同盟罷業ヲ起スト云フヤウナ際ニハ、多ク組合ノ爭議部ト云フヤウナ所ニ相談ニ參リマス、此場合ニ於テ、此所屬組合ニ於テ、今同盟罷業ヲ起ス時機デナイカライケナイト言ッテ、鎮壓ヲスル時モアリマス、又今ヤルガ宜カラウト云フコトデ、其組合ノ幹部ガ乘込ンデ行ッテ、サウシテ萬般ノ指揮ヲ致スト云フヤウナ事モゴザイマス、唯烏合ノ衆デアリ

マシテハ、到底同盟罷業ハ成功致シマセヌカラ、多ク所屬ノ労働組合ノ幹部ガ其地方ヘ參リマシテ、サウシテ其罷業ノ指揮ヲスルト云フコトガ、今日ノ實際ノ狀況デゴザイマス、ソコデ其労働組合ガ爭議ニ關係ガアル、サウシテ其幹部モ現ニ關係ガアルト云フトキニハ、其者ヲ爭議ニ關係ナキ者ト云フコトハ出來マイ、即チ爭議ガ起ッテカラ、第二條ノ通知ガアツテカラ後ニ幹部ガ乗出ス労働組合ガ乗出スト云フヤウナコトハ、是ハ現ニ其爭議ニ關係アルモノトハ申サレマセヌ、併ナガラ爭議ノ起ツタトキ、又第二條ノ通知ヲ受ケタトキ既ニ所屬ノ労働組合ガ此爭議ニ關與シテ居ッテ、サウシテ其幹部ガ之ニ又關與シテ居ッタナラバ、之ヲ全然爭議ニ關係ガ無い、斯ウ云フ風ニ看做スコトハ出來ナイト考ヘルノデアリマス、御言葉ノ中ニ労働組合云々ト云フコトガゴザイマシタガ、私ノ申上ゲマシタ労働組合ト云フ意味ハ、労働組合ノ幹部ハ、前ニ申上ゲタ場合ニ於テハ爭議ニ關係アルモノト看做スガ、然ラバ労働組合ノ幹部ト云フ、其労働組合ト云フモノハ何デアアルカ、斯ウ云フ御尋ニ對シテ、此労働組合ト云フノハ、労働組合法案ニ所謂法人タル労働組合ノミナラズ、實際上存在シテ居ル労働組合ナラバ構ハヌ、其労働組合ガ現實ニ罷業ニ參與シテ居ル、其幹部モ亦現ニ同盟罷業ニ關係シテ居ルト云フ場合ニハ、其者ヲ

以テ其爭議ニ關係ナキ者ト看做ス譯ニ行カナイ、斯ウ云フ解釋ヲ申上ゲタ次第デゴザイマス

○原(夫)委員 是ハ治警十七條ハ、此點デ廢セラレテ居ル交換問題デアリマスカラ、極メテ重大ナ問題デアリマス、ソコデ清瀬君ノ問ヲ傾聴致シ、御答ヲ傾聴致シテ居ッテ、今長岡局長ノ御答辯ガアッタノデスガ、斯ウ云フヤウニ了解シテ宜イノデアリマスカ、其爭議ニ關係ナキ者ト云フコトハ、言葉ヲ換ヘテ云ヘバ、關係アル者ト云ヘバ、當事者ト云フコト以外ニ、更ニ關係アル者ガ無イモノカト云フコトヲ見ベキモノデアッテ、爭議ノ當事者ヲ關係者トスルノデハナイカドウカ、此結果ハ調停法ノ第一條ニハ當事者主義ヲ採ッテ居ッテ、爭ヲ起ス者ハ、其當事者三人ナラ三人、十人ナラ十人、百人ナラ百人ト云フ當事者デアアル、ソレニ依テ爭議ガ開始サレル、隨テソレハ調停シナケレバナラヌ、サウスルト其關係ナキ者ト云フノハ、當事者以外ニモ矢張關係ノアル者ト云フノガアルト云フ御解釋デアアルカドウカ、其點ヲ確メテ置キタイ

○長岡政府委員 此十九條ノ當事者ト云フ文字ハ、特別ノ意味ヲ持ッテ居ルヤウニ解釋シテ居リマス、是モ私ハ甚ダ言葉ガ下手デ、後ニ誤解ヲ招イテハ恐縮デゴザイマスカラ、殊ニ是ハ刑罰ノ制裁ガ附イテ居ル條文デゴザイマスカラ、是モ私ノ言葉ノ間違ヲ避ケル爲ニ

極ク緩クリ讀上ゲマス「當事者トハ特定ノ爭議ノ當事者タル使用者及其ノ相手方タル勞働者團又ハ勞働者團ニ屬スル者ヲ指ス當事者ナル語ハ勞働者ニ付テハ本法中第十九條以外ニ於テハ常ニ勞働者團ヲ意味スルモ第十九條ニ付テハ勞働者團ノミナラス其ノ勞働者團ニ屬スル者ヲモ含ム勞働者團トハ任意調停ノ場合ニ於テハ調停委員會ノ開設ヲ要求スル集團ニシテ(此ノ集團ノ範圍ハ事實上伸縮スルモノナルヲ以テ各場合ニ付テ其ノ範圍ヲ定メサルヘカラス)強制調停ノ場合ニ於テハ使用者ト實際ニ問題ヲ相爭フ勞働者ノ集團ニ付行政官廳ノ指定セル範圍ノ集團ナリ、勞働者團ニ屬スル者トハ如上ノ勞働者團ニ屬スル者ヲ云フ」是デ十九條ノ御解釋ヲ願ヒマス

○清瀬委員 今度ハ簡單明確ニ申シマスカ、第一條ノ第五號、是ハ本會議決私ガ聞キマシテ、總理大臣ノ答辯ガアッタノデスガ、其答辯ガ間違ッテ居ル、彼ノ場合ニ準備モ御有ニナラヌヤウデスカラ、追窮シマセヌデシタガ、「其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ」、是デゴザイマス、之ヲ聞イテ見マスト、瓦ストカ何トカ仰シヤッタケレドモ、ソレハ第一號ニアリマセヌ、實際何ヲ考ヘテ居ラレルノカ、私共斯様ナル人權ニ重大ナル關係アルモノヲ勅令ニ委任スルコトハ、誠ニ危險ト思フノデアリマスカ、臨時

ニ勅令ヲ發布サレマスト、何デモ入りハセヌカト云フコトヲ恐レマスカラ、豫メ之ヲ聞イテ置キタイ、

○長岡政府委員 是ハ私、内務大臣ノ辯護ヲ致ス譯デモ何デモゴザイマセヌガ、本會議ニ於テ内務大臣ガ瓦スト云フコトヲ申シマシタノハ、此日常生活ニ直接ニ關係アル、斯ウ云フ事ノ例示ニ申シマシタノデ、第五號ノ關係デ申上ゲタノデゴザイマセヌ、是ハ速記録ヲ御覽下サイマスカ、是ハ速記録シテ大臣ガ答ヲ間違ッテ居ッタノデナイト云フコトヲ申上ゲマス

○清瀬委員 自動車……

○長岡政府委員 清瀬君ハ一號ニ入ルト云フ御話デゴザイマスカ、一號ハ「蒸氣、電氣其ノ他ノ動力ヲ使用スル鐵道、軌道又ハ船舶ニ依リ」ト云フノデゴザイマシテ、乗合自動車ハ軌道又ハ船舶ニ包含シテ居ナイ、斯ウ云々ハ解釋シテ居ル、ソレデ五號デ吾々ガ只今豫想シテ居リマスノハ、或ル地方ニ於キマシテ乗合自動車ガ唯一ノ交通機關デアッテ、是ガ罷業ヲ始メルト、直ニ公衆ノ日常生活ヲ脅カサレルト云フヤウナ地方ガアレバ、是ハ一ツ考ヘテ見ヤウ、又或ル地方、即チ大港灣ニ於ケル沖仲仕等ガ罷業ヲ起シマシテ、直ニ日常生活ニ影響ヲ及ボスト云フコトガアッタナラバ、是モ考ヘテ見ヤウト云フヤウナ二ツ位ヲ豫想シテ居ルダケデアリマシテ、清瀬君ノ御話ニナリマシタ紡績デ

アリマストカ、其他列舉サレマシタコトハ、日常生活ニ關係ガ無イトハ申シマセヌガ、直接關係アルモノトハ言ヘヌト思ヒマス、外國ノ例等ヲ見マスト、石炭ノ如キモノハ入ッテ居ル所モアルヤウデアリマスカ、日本ノ現在ノ狀況ニ於キマシテハ、マダ「石炭」ト云フモノガ家庭ノ必需品デ、是ガ供給ガ止ルト、直ニ日常生活ヲ脅カサレルト云フヤウナ狀況マデ行ッテ居ラヌト考ヘマスカラ、石炭ノ如キモノハ之ニ入レル考ハゴザイマセヌ、又米ノ如キモ、是ハ必需品ニ違ヒアリマセヌガ、一號、二號、三號ノ事業ヲ御覽ニナルト分ルヤウニ、多クハ獨占的ノ仕事デアアル、獨占事業ハ直ニ公衆ノ日常生活ヲ脅威シマスカラ、只今申上ゲマシタ地方ノ乗合自動車、或ル地方ノ沖仲仕ト云フヤウナモノ位ヲ只今ハ豫想シテ居ル、是モ地方ノ事情ヲ能ク調ベマセヌト、ソレモ入レルカ、入レナイカ只今ノ所デハ玆ニ列舉シテアル通り當分進ム積リデアリマス、左様ニ御承知アリタイ

○清瀬委員 能ク御覽願ヒタイノデアリマスカ、日常生活ト申シマスト、矢張衣食住ト云フコトニ關係ガアル、日常生活ト云フ文字ニハ、獨占ト云フ意味ハ含ンデ居リマセヌ、獨占事業ト御書キニナレバ、又私共解釋ノ方法ガアリマスガ、世ノ中ニサマデ法規別拔ヲセナケレバナラヌヤウナ獨占事業ガアルカナイカハ問題デアリマス、又法律

上ノ獨占ト云フト、特許權ト謂ハナケレバナリマセヌガ、事實上ノ獨占トハ「トラスト」デアリマス、是等ノ文字ノ解釋モ始終出テ來マスガ、今ノ日常生活ト云フ文字ヲ御解釋ニナツテ、乗合自動車ダノ、沖仲仕ダノ——沖仲仕ナンテ云フ人ガ、ドウ致シテ居ッテモ、吾一寸今ノ想像デハ日常生活ニ關係アリトモ思ヒマセヌカラシテ、若シ解釋ニ疑義アルヤウナ者ナラバ、是ハ雅量ヲ示シテ削除ニ御同意アラシコトヲ希望致スノデアリマス、モウ是デ終リデアリマスケレドモ、治安警察法第十七條ノ撤廢ニ付キマシテ、一ツダケ聞イテ置キマス、此前ノ十九條ノ所デ、矢張十七條ガ問題ニナリマシタガ、要スルニ同盟罷業ニ付テ今迄問題ヲ生ジタノハ、十七條ガ惡イノデナイ、實ハ裁判所ガ惡カッタ、何處ノ國デモ「ビケッティンク」トカ、即チ罷業者ノ後ヲ跟イテ行ッタリ、或ハ張番ヲシタリ、所謂困ラスヤウナ事ヲシテ、同盟罷業ヲスル者デアリマスルト、ソレヲ罰シタ、誘惑煽動モ矢張其考デ、私ハ日本ニ輸入サレタモノト思フ、ソレヲ勸誘スルノモ犯罪中ニト云フ解釋ガ全體イケナイノデアリマスガ、併ナガラ十七條ヲ廢シタ結果、違法性ノ手段ト云フコトニ少シモ注意サレナカッタコトハ、甚ダ私不本意ト思ヒマス、要スルニ同盟罷業ノ場合、例ヘバ今日ノ共同印刷デヤッテ居ルヤウニ、火ヲ付ケタトカ、他所ニ怒鳴リ込ダトカ、同

盟罷業ニ牽聯シテ惡事ヲスレバ、矢張罰シナケレバナラヌ、要スルニ問題ハ其所ニアルノデアリマス、ソコデ十七條撤廢以後ニ於テ、ソレヲ以テ第十九條ト代ヘラレタコトヲ遺憾トスルコトハ前述べ通りデアリマスガ、料ラズモ昨日ノ新聞ヲ拜見シマス、斯ウ云フ事ガアリマス、是ハ日日新聞デアリマスガ、「勞働運動ノ取締規定タル治安警察法第十七條ノ削除法案ハ、目下衆議院ノ勞働立法委員會ニ於テ審議中デアルガ、本案ガ議會ヲ通過シタ曉ハ、内務省デ之ニ關聯スル勞働運動ノ取締規定タル現行警察犯處罰令、並ニ關係府縣令ノ改廢ヲ行フコトニ決シテ居ル」ト斯ウ云フコトガアルガ、或ハ信ジ或ハ信ジナイ者デアリマスケレドモ、何カ此十七條ニ代ハルヤウナ取締規定デモ御作りニナル御考デアリマセウカ、ソレヲ伺ッテ置キマス

○鈴木政府委員 別ニ代ハルモノヲ作ルト云フ趣旨デハナイノデアリマス、唯昨日デアリマシタカ、ドナタカノ質問デ、府縣ノ或ル取締規則ニ甚ダ不都合ナモノガアルカラ、之ヲ取除カヌコトニハ、十七條ヲ撤廢シテモ結局役ニ立タヌデハナイカト云フ意味ノ質問ガアリマシタカラ、左様ナ牴觸スルモノガ府縣令ニアリマシタナラバ、ソレダケハ除クヤウニ致ス、斯様ニ政務次官カラ答ヘラレタ、ソレヲ書イタモノデアアラウト存ジマス

○清瀨委員 ソレデ了承致シマシタ、サウアラシコトヲ希望致シマス、府縣廳ノ命令等デ以テ、從來ノ如ク制限ヲスルト云フコトハ、洵ニ惡イノデアリマス、好イ機會デアリマスカラ、政務次官ガ御出ニナツテ居リマスカラ伺ッテ置キマス

○森田委員長 御靜ニ願ヒマス

○清瀨委員 勞働ノ取締デモ、其他ノ自由權デモ、例ヘバ風呂屋ノ風呂賃デアルトカ、車屋ノ車賃デアルトカ、全體國民ノ自由ニ屬スベキモノデモ、府縣令デ以テ之ニ制裁ヲシテ、憲法ノ趣旨カラハ無効デアルベキモノマデモ、委任命令モナシニヤッテ居ルモノガ遵奉サレテ行ク道理ガ茲ニ一ツアル、何故デアルカト云フト、彼ノ明治二十三年法律八十四號デ、罰則ヲ命令ニ委任シテ居ル、ソレヲ又府縣ニ委任シテ、各省大臣ナリ府縣知事ガ、甚シキハ郡長ニ至ルマデ罰則ガ委任サレテ居ル、ソコデ憲法ニ違反シタ、國民ノ自由ヲ制限スルヤウナソノナ規則ヲ、ドント下罰則ヲ附ケルカラシテ、法律ニ違反シタ所ノ命令デモ遵奉サレテ居ル、縛ラレテハ叶ハヌカラシテ遵奉スル、此ニ吾々ガ勞働組合法ヲ作ッテ、結社ノ自由ヲ認メテ置イテモ、之ニ違反スルヤウナ府縣令ヲ作ッテ、矢張五十圓ノ罰金トカ、二十日ノ拘留トカ云フ制裁ヲ附セバ、二十日ノ拘留デモ叶ハヌ、行クノ

ハ厭ダカラ到頭違法ノ命令ガ遵奉サレテ行クノデアアル、悲ヒ哉我國ノ法律組織ガ少シモ實行サレテ居ラヌ、左様ナ事ハ甚ダ遺憾デアリマシテ、其元ハ明治二十三年法律八十四號ニ在ルノデ、今ノ内閣ノ責任デハナイガ、此法律ハ何時カ改廢サルベキモノト思ヒマスガ、折角此委員會デ、或ハ衆議院貴族院デ、勞働爭議調停法ナリ、或ハ勞働組合法ヲ作ッテモ、之ヲ行政命令デ無効ニサレルヤウナコトノナイヤウニ、切ニ希望致シテ置キマス、之ヲ以テ私ノ大體ノ質問ヲ終ル次第デアリマス

○山根委員 同僚比佐君ガ後カラ詳細ナル御質問ガアリマスカラ、私ハ極ク簡單ニ大體ノ二三ノ問題ダケヲ御尋シタイト思ヒマス、本法ヲ制定スル趣旨ハ、勞働者ノ團體的行動ヲ保護スルニ在ルト云フコトヲ、先般若槻大臣カラ本會議ニ於テ御説明ニナツテ居ルノデアリマス、勞働者ガ團體運動ヲスル、之ヲ保護スル爲ニ本法ヲ制定スルト云フナラバ、勞働者ノ要求ヲ基礎ト致シマシテ制定セラレベキモノデアアラウト思ヒマス、所ガ其後段々伺ヒマス云フト、確カ若槻大臣ガ何カノ機會デアッタカト思ヒマスガ、本法ヲ制定スル趣旨ハ、日本ノ産業ノ健全ナル發達ノ爲デアルト言ハレタ、其他政府委員ノ方カラハ、單ニ勞働者ノ爲ノミナラズ、産業ノ發達ノ爲デアルト云フ御答ガアリマシタ、社會局長カラハ、資本勞働兩方カラ攻メ

ラレテ居ッテ、極メテ公平ナル處置ヲ取ッテ居ルト云フ御話ガアリマシタ、サウスルト公平ナル御處置ヲ取ッテ、兩方ニ満足ヲ與ヘナイガ、併シ適當ナル處置ヲ御取リニナツタト御信ジニナツテ居ルコトデアラウト思フ、先日來色ニ此法案ガ勞働者ニ如何ナル利益ヲ與ヘルカト云フコトヲ質問サレマシテ、ソレニ付テ、鈴木參與官ガ四ヶ條ノ利益點ヲ擧ゲラレテ居ルノデアリマス、所ガ左様ニ公平ナ立場ニ立ッテ兩方ヲ押ヘテ本法ヲ制定セラレタト言ハレルナラバ、政府ハ勞働者ノ要求ノ中ノ如何ナル點ヲ押ヘ、資本案ノ要求ノ如何ナル點ヲ押ヘ、タノデアリマス、先日來ノ質問應答ニ依リマス、勞働者ノ利益トナル四點ノミヲ擧ゲテ居ラレルガ、單ニ勞働者ノ利益トナル點ノミヲ擧ゲズ、勞資兩者ニ對スル態度竝ニ何處ニソレガ現ハレテ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

○鈴木政府委員 勞働組合法ヲ制定スルニ付テノ目的ト申シマス、之ヲ説明致シマス、國務大臣並政府委員カラ時ヲ異ニシテ、言葉ヲ異ニシテ色色ノ説明ヲ致シマシタカラ、色々ナ意味ニ御聽取ニナツタカモ存ジマセヌガ、之ヲ一括シテ申シマスレバ、勞働者ノ團結ヲ公認シテ、其組合運動ニ據ルベキ基準ヲ與ヘテ、其運動ヲ秩序的ナラシムル、斯ウ云フ點ニ存スルノデアリマス、斯ノ如クスルコトガ勞働者ノ利

益デモアリ、又産業方面ノ利益ニモ結局ナルノデアリマス、斯ウ云フコトデゴザイマシテ、此意味ヲ以テ政府ハ極メテ公正ナル態度ニ於テ此勞働法案ヲ制定シタノデアリマシテ、之ヲ制定スルニ付テハ別ニ勞働者側ニ諮問シタ譯デモナク、資本案側ニ諮問シタ譯デモアリマセヌ、隨テ勞働者又ハ資本案ノドノ要求ヲ採リ、ドノ請求ヲ退ケタト云フヤウナ具體的ノ事實ハ何モナイノデアリマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

○山根委員 勞働者ニモ資本案ニモ問合セタコトハナイカラト云フ御答デアリマスガ、恐ラクソレ等ノ意向ヲ確メズシテ法律ヲ御制定ニナル筈ハナイト思ヒマス、斯ウ云フ委員會デアリマスカラ、所謂答辯口調デナク、ザックバラシニ大體ノ御趣旨ヲ御説明アラムコトヲ希望致シマス

○鈴木政府委員 大體ニ於テ勞働者側ノ要求スル所、資本案側ノ要求スル所ハ具體的ニハ尋ネマセヌガ、或ハ新聞ニ依リ、或ハ雜誌ニ依リ、或ハ機會ノアツタ時分ニ直接向フノ口カラ漏レタヤウナコトモ聞イテ居リマス、是等ノ各方面ノ意向モ種々斟酌致シマシタ、斯テ得タルモノデゴザイマスカラ、是レ以上第何條ガ其要求ヲ容レ、第何條ガ其要求ヲ退ケタモノデアルト云フコトハ、一寸答辯致シ兼ねルノデ、此點ハドウカ御諒承願ヒマス

○山根委員 ソレ以上追窮シテモ、公開ノ席デ御話ニナルコトハ不可能デアラウト思ヒマス、更ニ立入ッテ御尋致シマス、先般來展問題ニナツテ居リマス所ノ第一條ノ組合ノ單位ノ問題デアリマスガ、同一若クハ類似ノ産業、又ハ同一ノ職業ノ勞働者ヲ以テ組織スルト云フコトニハナツテ居ルガ、組合聯合會ヲ認メテオキデニナラナイ、是ハ先程清瀨君カラ立入ッテ御質問ガアリマシタヤウニ組合聯合會ハ極メテ重要ナル任務ヲ果シツ、アルノデアリマス、此處ニ勞働團體ノ表ヲ持ッテ居リマスガ、海軍ノ諸工廠ニ關スル海軍勞働組合聯合會ノ如キハ、非常ニ地域ガ離レテ居ッテ、或ハ舞鶴、吳、廣島、橫須賀、佐世保ト分レテ居リマスガ、是等ガ包含サレテ共同シテ活動スルコトニ依テ政府ニ對抗スルコトガ出來ルノデアリマス、又ハ官業總同盟ニ於テモ同様デアラウト思フ、其他幾ツモサウ云フモノガアリマスガ、之ヲ御認ニナラナイ爲ニ、活動ガ阻害サレルト云フコトハ清瀨君モ言ハレタ通りデアリマス、所ガ政府ハ組合聯合會ヲ全然認メテ居ナイカト云フト、第十條ノ「三」ニ組合聯合會ト云フモノヲ法律ノ文句ノ上ニ認メテオキデニナルノデアリマス、是マデ組合聯合會ト云フコトハ恐ラク法律ノ上ニ現ハレテ居ラナカッタノデアリマスカ、斯様ニ團體ノ存在スルコトヲ法律ノ上デ認メテ居リナガラ、之ヲ法人ニ加ヘラレナイ、加ヘラレナイノハ先

程鈴木參與官ノ御説明デハ、今日ハ事情ガ異ッテ來テ、組合聯合會ニ於テ各種ノ問題ヲ解決セズシテ、各組合ニ於テ解決セムトシツ、アル傾向ニナツテ來タト云フノデアリマスガ、私ハ他ニ何カ理由ガアリハシナイカト云フコトヲ推測スルノデアリマス、例ヘバ組合ガ大團結ヲ爲シテ、或ハ日本中ノ勞働團體ガ總テ同盟出來テ、勞働者ノ活動ガ非常ニ強クナルト云フコトヲ防ガウトスル所ノ、資本案階級ノ意見ニ耳ヲ傾ケタノデハナイカ、斯ウ云フコトヲ想像セザルヲ得ナイノデアリマス、政府ハ何ガ故ニ聯合會ヲ御認メニナツタカト云フコトヲ更ニ改メテ清瀨君ニ御答辯ガアツタ以外ニ、何カ理由ガアルノデハナイカト思ヒマス、重ネテ伺ッテ置キマス

○鈴木政府委員 聯合會ノコトハ先程清瀨君ニ御答シタ以外ニハ何等他意ガナイノデアリマス、而シテ現在ノ勞働界ノ實狀ヲ見マシテモ、清瀨君竝ニ山根君ノ御示ニナツタヤウナ日本勞働總同盟デアルトカ、其他ノ所謂聯合會ノ素質ヲ持ッテ居ル所ノ團體ハ今日法人デハナイ、今日法人トシテ組織サレテ居ルモノハ、昨日長岡社會局長官カラモ申サレマシタ通り、財團法人海員協會、横廠工友會ダケニ止ッテ居リマス、現在ニ於キマシテハ兎モ角モ聯合會ト云フモノハ法人ト云フコトニナツテ居ラナイ、併ナガラ聯合會ヲ法人トシテ

認メル方が宜シト云フコトハ、是ハ大ニ尊重スベキモノト思ヒマスガ、今日ノ所デハ先ヅ之ヲ法人ト認メズ、唯事實上ノ聯合會トシテ取扱フテ差支ナイト思ヒマス、斯様ナ趣旨カラ致シテ、斯ウ云フ立法ヲ致シタ次第デアリマス、サリナガラ遠キ將來ト申シマセウカ、近キ將來ト申シマセウカ、此聯合會ハドウシテモ法人トシテ認メル必要ガアルト云フ事象ヲ現ハス時ガ参リマシタナラバ、是ハ大ニ考慮シナケレバナラヌト思ヒマス

○山根委員 其處ガドウシテモ分ラヌノデアリマス、事實上ノ存在ハ認メルケレドモ、法人トハシナイ、法人トスレバ利益ガアルト先程色々御説明ガアリマシタガ、其理由ガドウシテモ分ラナイノデアリマスカラ、政府ニ於テ篤ト御考慮ヲ願ヒタイト私ハ考ヘマス、次ニ所謂勞働協約ニ關シテ政府ニ於テハ其必要ヲ認メナイデハナイト云フ御説明デアリマス、而シテ若槻內務大臣ノ御説明ニ依リマスルト云フト、ソレハ今研究中デアルカラ、研究ガ出來上ツタラ特別ニ法規トシテ出スカモ知レナイト云フ御答デアッタノデアリマスガ、併シ內務省社會局案ノ原案ニ依リマスト、是ガ款ニ載ッテ居ルノデアッテ、內務省社會局ニ於テハ相當御研究ノ結果、然ルベシト云フ結論ニ達シテ、原案ヲ御出シニナツタト思フノデアリマスガ、何故ニ之ヲ省カナケレバナラヌト云

フ更ニ新シイ理由ヲ發見サレタノデアルカ、之ヲ伺ッテ置キタイノデアリマス

○鈴木政府委員 團體交渉ヲヤルコトハ一向差支ナイノデアリマス、團體協約ノ效力ニ關スル規定ハ社會局案ニハアツタガ、今度ハ無イガドウ云フ譯デアルカ、是ハ色々研究致シマシタ結果、團體協約ニ關シテハ單純ナル一箇條ヤ二箇條ダケデハ、ドウモ十分ナ效果ヲ現ハスコトハ出來ナイ、現ニ獨逸ノ勞働團體協約ニ關スル法文ヲ見マシテモ、現行ノモノハ十數箇條ニ互ッテ居リマスルガ、又勞働協約ノ草案ト云フモノガ社會ニ發表サレテ、各方面ノ批判ヲ求メテ居ル、是ナドハ殆ド三十條ノ多キニ互テ居ル、現在ノ十數箇條デハ矢張役ヲ爲サヌト云フ故デ、三十箇條ニ互ル草案ガ今日立案サレテ居リマス、ソレカラ團體ガ違ヒマスカラハ必シモ例ニハナリマセヌケレドモ、勞働露國ノ所謂團體協約ノ如キハモウ一層複雑デアリマス、佛蘭西又然リト云フヤウナ譯デゴザイマシテ、唯一ツ瑞西ノ民法ノ中ニ之ニ似寄ッタヤウナ規定ガ二箇條バカリ出テ居リマスガ、斯様ナ事デハ實際運用スル上ニ於テ大變不便ヲ感ズルノデアリマスカラ、團體協約ヲ實際ニ效果アラシメルヤウナ規定ヲ致シマスニ付キマシテハ、別ノ法規ヲ以テモウ少シ澤山條文ヲ列ベタモノニシナケレバ、ドウモ效果ガ無イヤウニ

思ヒマス、故ニ此勞働組合法カラハ削除致シマシテ、別ノ法案デ制定スル、斯ウ云フコトニ致シタ次第デゴザイマス

○山根委員 只今ノ御説明ハ御尤デアリマスガ、其處ニ居ラル、社會局長官ハ半年程前ニ、此條文ヲ勞働組合法ノ中ニ入レテ、然ルベシト云フノデ、第十二條ニ御入レニナツタノデアッテ、左様ニ多量ノ條文ヲ又別ニ御考ニナル筈デハナカッタラウト思ヒマス、如何ナル理由ニ依テカスノ如キ事ニナッテシマタ、恐ラク此説明ハ內務當局ニ於テハ得ラレナイ他ノ事由デアアラウト想像スルノデアリマスカラ、內務當局カラ是レ以上ノ説明ヲ求ムルコトハ私ハ致サヌ積リデアリマス、次ニ第十九條ノ解散權ノ問題デゴザイマスガ、是ハ清瀨君ガ御質問ニナツタニ對スル御答辯ニ依リマスルト云フト、清瀨君ノ言ハレタヤウニ解散デハナクシテ、屆登錄ノ取消ト云フヤウナコトニナルラシイノデアリマスガ、若シ唯單ニ登錄ノ取消ト云フヤウナコトヲ意味スルノデアリマシタナラバ、民法ノ七十一條ニハ法人ニ對スル取消規定ガアリマシテ、而モソレニ矢張公益ヲ害スベキ行為アレバ、或ハ目的以外ノ事業ヲ爲シ、又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シト云フノデアリマスカラ、文字ハ少シ違ヒマスガ、此所ノ意味ト違ハナイノデアリマス、何故ニ左様ナ取消スヤウナ條文ヲ更メテ之ヲ御出シニナルノデアアルカ、

之ヲ出スコトニ依テ勞働者ハ或ル一種ノ意思ガ此中ニ含マレテ居ルモノデアアル、左様ニ社會局長官ハ御説明ニナルガ、是ハ唯寶刀トシテ巧ニ使ヒ分ケル政府ノ所存デアルト、斯様ニ勞働者ハ理解シテ此條項ヲ嫌ッテ居ルノデアリマスガ、何故ニ左様ナ意思ノ下ニ行ハレテ居ルナラバ、斯様ナ條項ヲ御加ヘニナツタノデアアルカ、私ニハ一向理解ガ出來ナイノデアリマス、唯七十一條ト違ッテ居リマスル所ハ、七十一條ハ主務官廳トナツテ居リ、是ハ主務大臣トナツテ居ル點ニ於テ相違ガアルニ過ギナイノデアリマスガ、此理由ヲ承リタイノデアリマス

○長岡政府委員 民法ノ法人ノ規定ハ、御承知ノ通り公益法人ニ關スル事デアリマス、ソレデ手續其他ニ付キマシテ、民法ノ規定ヲ個人ニ準用シテ差支ナイモノモアリマスシ、又此勞働組合ハ純然タル公益法人ト看做スベキモノデハナイト云フコトハ、過日大臣カラモ申上ゲマシタガ、隨ヒマシテ只今ノ解散規定ノ如キハ、公益法人ニ對スル解散ノ事由ト、公益法人デモナイ、又私益法人デモナイ、所謂中間法人ト申シマスカ、勞働組合ニ對スル解散ト云フモノトハ別ノ事由ニ依ルモノデアラウ、斯様ニ考ヘマシタ次第デアリマス、尙ホ使ヒ分ケ云々ト云フ誤解ガ勞働者側ニ在ルト云フコトデアリマスガ、是ハ全ク御話ノ通り誤解デアリマシテ、此法

案ソレ自體ガ、此法案ニ依ル以外ノ勞働組合ト云フモノヲ認メナイ、總テ此型ノ中ニ入レテシマフト云フ立前デアリマスレバ、十九條ニ依ル解散命令ハ、事實上ノ解散命令マデ及ブト云フコトニナリ得ルト思ヒマス、繰返シ御話申上ゲルヤウニ、此法案以外ノ勞働組合ト云フモノハ、事實上存在スルト云フコトヲ認メテ居リマス以上ハ、此十九條ノ規定ニ依テ事實上ノ解散マデ及ボスト云フコトハ、法律ノ解釋上出来ナイ、斯ウ申上ゲテ宜カラウカト思ヒマス

○俵政府委員 山折君ノ今ノ御問ニ對シテ私カラモ一寸申上ゲテ置イタ方ガ却テ誤解ヲ防グニ適當カ知ラスト思ヒマスガ、附加ヘテ置キタイト思ヒマスガ、先刻ノ交渉團體權ノ問題ニ付テ、社會局案ニアッタガ此法案ニナイ、是ハ或ハ内務省以外ノ方ノ何等カノ勢力ニ依テ省カレタノデハナイカト云フヤウナ御話モアリマスシ、且又昨日本暮君カラモ社會局案ニ對シテ別ナ勢力、別ナ機關ニ諮問シタト云フコトハ甚ダ面白クナイデハナイカト云ッタ如キヤウナ御尋モアッタノデアリマス、之ニ對シテハ昨日私ヨリ御説明ハ申上ゲテ置キマシタノデアリマスルガ、元來斯ノ如キ勞働立法ノヤウナ重大ナル法案ハ、是ハ十分ニ政府ガ立案スルニ付テハ、手續上ニ於テモ、其他ニ於テモ、餘程十分ナル考慮、十分慎重ナル取扱ヲ致スコトガ當然デアアルノデアリマス、

隨テ社會局案ト云フモノハ、勿論社會局長官ニ於テソレハ十分ニ審議ヲ致シマシテ作リマシタガ、之ヲ社會ニ發表シタ所以ノモノハ、之ニ就テ十分ニ社會ニ於テ研究ヲシテ貰ヒ、幾分カ社會ノ之ニ對スル所ノ批判ヲ求ムル爲ニ之ヲ發表シタノデアリマス、此發表ノ結果ト致シマシテ、各方面ヨリシテ之ニ對スル所ノ批判、之ニ對スル所ノ批評ガアルコトハ、是ハ勿論社會局ニ於テハ希望スル點デアルノデアリマス、其希望スル點ニ、丁度恰モ各方面ニ於ケル種々ナル御批判ガアリ、御批評ガアツタルデアリマスルカラ、之ニ就テ適當ナル修正ヲ加ヘテ出スト云フコトハ、今申上ゲマスガ如ク斯ノ如キ重大法案——勞働立法ノ法案ニ付テハ當然執ルベキ手續デアアル、當然斯クアツテ然ルベキモノト政府ハ信ズルノデアリマス、此意味ニ於テ社會局案ニ於テ交渉團體權ノコトガアリマシテモ、只今モ鈴木參與官カラ説明シマシタ如ク、是ハ單純ナ箇條デハイケナイ、更ニ特ニ之ニ就テハモウ一步進ンデ研究スル必要ガアルト云フ見地ヨリ、之ヲ削ツテ今回ノ條文ニハ入レナカッタノデアリマス、此點ニ付テ何等カ或ル別ノ勢力ノ抑制ト云ヒマスカ、強制ト云ヒマスカニ依テ、直シタト云フヤウナ御話ガアッタノデアリマスカラ、是ハ誤解ノナイヤウニ尙ホ一ツ申上ゲテ置キタイノデアリマ

○山折委員 民法ノ規定ヲ幾ラカ準用爲サツテ居ルノデアリマスカラ、サウ云フ極メテ輕微ナ事デアアルケレドモ、民法ノ規定ヲ御準用ニナツテ然ルベシト思ヒマスケレドモ、其方ガ穩當デアアルト思フト——併シ是ハ議論デアリマスカラ別ニ述ベヌコトニ致シマシテ、尙ホ唯一點ダケ小サイ點ヲ伺ツテ、私ノ質問ヲ打切りタイト思ヒマス、先日有馬君ガ此勞働組合ニ營利行爲ヲ認メナイノハ、何故デアアルカト云フ御質問ガアツタト思フノデアリマスガ、必シモ營利行爲ト言ハナクテモ、組合ハ今日ノ組合ニ於キマシテモ、購買部ヲ設ケテ居ル組合ガアルノデアリマシテ、是ハ其家族ガ購買組合員トナツテ居ルノデアリマスガ、是ハ營利行爲デナクテモ自然ニ或ル利益ヲ舉ゲルモノデアリマス、サウ云フ購買組合等モ矢張第二條ノ二項ノ規定ノ中ニ這入ルモノデアアルカト云フコトヲ承ツテ置キマス

○長岡政府委員 組合員ノ共同利益ノ保護増進ト云フ文字ノ解釋ハ勿論解釋ノ仕方ニ依テ色ミデアリマセウガ、此中ニハ例ヘバ組合員ノ家族ニ對スル病氣見舞金ノ支出、或ハ公利公益ノモノ、機關雜誌ノ發行ト云フヤウナ保護増進——其他ニ關スル事項デ、組合員ノ共同利益ノ保護増進ト云フ規定ノ中ニ這入ラヌコトハ、是ハ申スマデモナイコトデアリマス、唯此營利事業ニ這入ルカ這入ラヌカト云フコトデアリマス、

○山本委員 營利事業ハ過日モ大臣カラ御答申上ゲタヤウニ、是ハ這入ラナイ、併ナガラ單獨ナル行爲デソレニ多少利益ノ伴フモノト云フヤウナモノハ、是ハ入レテ差支ナカラウ、左様ニ考ヘテ居リマス

○山折委員 只今單獨ノ行爲ト云フ御答デアリマシタガ、繼續シテ勞働組合ガ購買部ヲ設ケテ居ルト云フコトハ、或ハ鐵工組合、向上會デモソレハ規則ノ中ニ入レテ居ルノデアリマス、之ヲ簡單ナ行爲デ偶然ニ利益ガ生ジタト云フ風ニ見ラレマスカ、此點ハ重要ナ問題デアアルト思ヒマスカラ、明ニ御答辯ヲ願ヒタイ

○長岡政府委員 營利事業ト申シマス、繼續シテ營利ノ目的ヲ以テ行ヒマスル事業——是ハ斯ウ云フ風ナノガ普通ノ解釋デアルト考ヘマス、デ購買部ノ性質デアリマスガ、購買部ハ共同利益ノ保護増進ヲ目的トシテ、即チ組合員ニ對シテ物ヲ供給スルト云フヤウナモノデ、繼續シテ利益ヲ得ルト云フ目的デ造ッタモノデナイ、恰モ偶然ノ結果利益ガアルコトガアルト云フコトハ、是ハ營利事業ト云フ事項ニハ這入ルマイト考ヘテ居リマス

○山折委員 私ノ質問ハ是デ打切りマス

○山本委員 私ガ最初ニ御尋致シマスルコトハ、第一條ノ同一又ハ類似ノ職業又ハ產業……此問題ニ付キマシテハ本會議以來再々御尋ニナツタノデア

リマスガ、尙ホ疑問ガアリマスノデ、進
ンデ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、今日
ノ産業組織ノ實際ヲ見マス、今日
非常ニ複雑ナル組織ガアリマス、職業
産業ト云フ關係ハ非常ニ輻輳シテ居
ル、之ヲ職業別、或ハ産業別、同一又ハ類
似ト云フヤウナ言葉ヲ以テ、言葉ノ上
デ區劃ヲ立テルコトハ極メテ平易デア
リマスガ、此法律ヲ實際ニ適用スル
コトニナリマス、今日、今日
ノ産業組織ニ照シテ非常ニ不自然ナ結
果ニナル、而シテ其職業別ト云ヒ、産業
別ト云ヒ、同一又ハ類似ト云フコトノ
範圍ノ限定ヲ、一行政官ノ見解ニ依テ
決スルコト云フコトニナレバ、非常ニ危
險ナル結果ニ陥リハシナイカ、斯様ニ
考ヘルノデアリマス、斯様ナ規定ガア
リマス結果、折角本法ガ届出主義ヲ執
テ居リマシテモ、實際ノ結果カラ見
シテ組合ヲ公認スルコト公認シナイ
ハ、官憲ノ力ニ依ルモノデハナイカ、依
ルト云フ結果ニ陥リハシナイカ、實際
ニ於テ之ヲ解釋スル——解釋スルコ
トコトハ、官憲ガ握ル、官憲ノ力ニ依
テ掌握セラレルト云フヤウナ結果ニ陥
ナイカ、是ガ先ヅ御尋ノ一點デアリマ
ス、ソレカラ組合法ノ適用ヲ受クルモ
ノハ、同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ニ
従事スル者ガ組織スル組合ニ限ルト云
フコトニナリマスガ、併ナガラ今日ノ
此國際平和條約等ノ關係カラ見マシ
テモ、此制限ニ副ハナイモノデアッテモ

如何トモ出來ナイ、是ハ政府ノ言明ヲ
俟タズ、組合法ヲ以テ如何トモスルコ
トガ出來マセヌ、左様致シマス云フト
其當然ノ結論トシテ、政府ノ公認シテ
居ル團體ノ中デ、此組合法ノ適用ヲ受
ケルモノト受ケナイモノトガ出來ル、
是ハ當然ノ結果デ之ヲ免ル、コトハ出
來ナイノデアリマス、左様致シマス
云フト法理上ノ原則トシテ、禁止法デ
アルトカ、或ハ取締法デアルトカ、刑罰
法規ノヤウニナリマスガ、弊害ノアル
モノダケヲ制限的ニ消極的ニ限局スル
ト云フコトガ是ガ立法ノ通則デアリマ
ス、併ナガラ此法案ガ保護法デアルト
云フコトハ、是ハ政府モ屢言明セラレ
テ居ルノデアリマスガ、是ハ政府ノ言
明ヲ俟タズシテ當然——法律ノ性質ト
シテ當然ナコトデアリマス、苟モ此保
護法ト云フ性質ヲ有スル法規デアッテ、
而モ政府ノ公認シテ居ル團體ノ一部ニ
ハ適用サレルガ、一部ニハ適用セラレ
ナイ、斯ウ云フ結果ニナル、苟モ此保護
法ト致シマシテハ、法理上當然ノ要求
トシテ一人トシテ此適用ニ漏ル、者ガ
ナイヤウニ作ルノガ、是ハ法律ノ要求
デアラウト思フ、然ルニ本法ニ於キマ
シテハ、只今申上ゲマシタ如ク、全ク正
反對ノ結果ヲ來シマス、之ヲ冷靜、公
正ナル法理論トシテ考ヘマシテモ、本
法ノ立案ノ趣旨ヲ理解スルコトニ苦ム
ノデアリマス、此點ニ付テ明確ナル御
答辯ヲ願ヒタイ、ソレカラ職業別、産業

別ノ區劃ノ立テ方ニ於テモ、是ハ先程
申上ゲタヤウナ次第デアリマス、尙ホ
進ンデ考ヘテ見マス、此個々ノ組合
員ニ對シテ、果シテ組合員全體ガ同一
ノ産業、又ハ職業ニ従事シテ居ルカド
ウカト云フ、之ヲ見分ケルト云フコト
ハ、非常ニ困難ナコトデハナイカ、理窟ト
シテハ成程出來マスガ、之ヲ實際問題
トシテ考ヘマス、云フト、之ヲ個々ニ
互テ精密ニ調査スルコト云フコトハ是
ハ至難ナコトデアアル、之ヲ極メテ精密
ニ嚴重ニ調査スルコト云フコトニナリマ
ス、先程申上ゲタヤウニ折角届出主
義デ、紙一枚ヲ以テ組合ガ設立サレル
ト云フ便利ガ與ヘラレテ居リマシテ
モ、濫リニ——濫リニデハアリマセヌ、
嚴重精密ニ立入ッテ調査セラル、ト云
フコトニナリマス、組合ノ設立ト云
フヤウナコトガ非常ニ困難デアアル、然
ラバト云ウテ之ヲ調査シナイデ、杜撰
ニヤルト云フト、折角産業別若クハ職
業別ノ規定ガアリマシテモ、之ガ實際
ニ行ハレナイ、其結果ト致シマシテハ
法ノ威信ヲ傷ケル如キコト、國權ヲ輕
カラシメタルト云フヤウナ結果ニナリ
マス、是等ノコトニ付キマシテモ、産業
別職業別ト云フコトヲ設ケタ理由ガ何
所ニ在ルカ、了解ニ苦シマスカラ、先
ヅ此點ダケヲ伺ヒマス

○長岡政府委員 只今ノ御質問中御意
見ニ涉リマスコトハ私カラ討論的ニ申
上ゲルコトハ失禮ト考ヘマスカラ避ケ
テ置キマスガ、提案ノ理由ハ昨日來線
返シテ申上ゲルヤウニ、利害關係ヲ同
ジクスル者ガ團結シテ一ノ組合ヲ組織
スルコトハ、世界的ノ大勢デアリ、又日
本ノ趨勢デモアリマス、利害關係ノ相異ナ
ル者ガ團結スルコトハ不自然デアリマ
スカラ、之ニ制限ヲ置イテモ甚シク苦
痛ヲ與ヘルコトハナカラウト云フコト
ヲ申上ゲテ置キマシタガ、只今御質問
ニゴザイマシタヤウニ、産業職業ト云
フコトヲ同一ニ解シマス、只今山本
君ノ御質問ノヤウニ解釋ガ困難ニナッテ
來ルト考ヘマス、併ナガラ類似ト云フ
コトガアリマシテ、其所ニ多少ノ餘裕
ヲ存シテ居ルノデアリマス、當局
者ノ窺窮ナ考ニ依テ組合ガ迷惑ヲ受ケ
ルヤウナコトハナカラウト思ヒマス、
殊ニ産業ト申シマシテモ、職業ト申シ
マシテモ、之ヲ學術的ニ定義ヲ與ヘル
コトハ容易デアリマス、ケレドモ、併シ
其範圍ト云フモノハ自ラ社會ノ變遷時
勢ノ進退ニ依テ變ッテ來マスノデ、今日
同一ノ産業ト申シマシテモ、明日ハ其
産業ノ範圍ガ擴張サレルト云フコトモ
有リ得ルノデアリマス、隨ヒマシテ總
テ社會立法ハ何處デモサウデアリマス
ガ、嚴格ナ定義ヲ與ヘルコトヲ避ケル
ノガ當リ前デアリマス、勞働者トハ斯
ウ云フ者ヲ謂フトカ、勞働爭議トハ
斯ウ云フモノヲ謂フトカ、産業別トハ
斯ウ云フモノヲ謂フトカ、刑罰法規ニ
アリマスヤウナ嚴格ナ定義ヲ與ヘルコ

トハ困難デアリ不適當デアルト云フ所カラ、大體法文ニ在リマス定義的ノ文字ノ解釋ハ、其時ノ社會事相ノ變遷ニ伴ヒ、社會ノ通念、社會ノ常識ニ依テ判斷スル外アリマセヌ、産業別職業別ト云フコトニ付テ御議論ガアリマシタガ、先ヅ今日ノ通念ニ依テ、同一又ハ類似ノ産業、同一又ハ類似ノ職業ト云フコトヲ具體的ニ決定スルコトハ、左程困難デナカラウト思ヒマス、例ヘバ日本司厨同盟、東京造船職工組合、九谷書工組合、自動車勞働組合、新聞勞働組合、是ハ新聞配達夫ノ組織シタモノ、渡船夫組合ト云フヤウナモノハ、職業別組合ノ一ツノ例デアラウト思ヒマス、又日本海員組合、東京印刷工組合、關東釀造勞働組合、建築勞働協會、日本鑛夫組合ト云フヤウナモノハ、産業別組合ノ代表的ノ例デアラウト思ヒマス、實際問題ニ當リマシテハ同一又ハ類似ノ組合ト云フ文字ガアリマスレバ、只今御話ノヤウニ地方官權ノ窮乏ナ解決ニ依テ、組合ガ壓迫ヲ受ケル憂ハナカラウト思ヒマス、次ニ國際會議ノ御話ガゴザイマシタガ、此法律ガ假ニ職業別企業別或ハ産業別ニ限ッテ、其以外ノ勞働組合ハ認メナイ、斯ル結社ハ禁止スルノデアルト云フヤウナコトデアリマスナラバ、是ハ多少「ベルサイユ」條約ノ規定ノ精神ニ反スルモノト思ヒマスガ、縷々昨日來申上ゲマス通り、是ハ決シテ法人組織ニスルコトヲ強制シテ居ラ

ヌ、サウシテ此法ニ依レバ斯ウ云フ保護ヲ與ヘルカラ這入リタイ人ハ這入ッテ來イ、此法ガ氣ニ入ラナケレバ此法以外ニ於テ事實上ノ勞働組合トシテ存在シ得ルノデアルト云フヤウニ、選擇ノ自由ヲ勞働組合ニ與ヘルコトガ、一面カラ云ヘバ妙味ノ在ル所デ、是ガ山本君カラ云ヘバ差別待遇デアルト云フコトニナリマスガ、私共ハ其所ニ立法ノ妙味ガ存スルノデハナイカト考ヘテ居リマス

○山本委員 モウ一ツ産業別職業別ノ外ニ、個々ノ組合員ガ果シテ同一若クハ類似ノ産業又ハ職業ニ從事シテ居ルト云フコトヲ調査スル點ハ如何デアリマスカ

○長岡政府委員 只今ノ御話ハ職業別デハ殆ド問題ハナカラウト思ヒマス、例ヘバ大工ナラ大工、是ハ紡績會社ニ勤務シテ居リマシテモ、造船會社ニ勤務シテ居リマシテモ、又自分勝手ニ親方ニ雇ハレテ居ル者デモ、大工ナラ大工ト云フ者ガ、職業別組合ヲ造ルナラバ大工ト云フ社會通念ニ依テ其者ガ大工デアアルカ否カト云フコトハ明カニナラウト考ヘマス、唯産業別ニ致シマス、一ツノ紡績會社ニ勤務シテ居ル者ノ中ニ、或ハ釜焚モアル、絲ヲ紡グ女工モアル、或ハ機械ノ油差モアルカモ知レヌト云フヤウナコトハ、稍觀念ノ明白ヲ缺クコトガアルカモ知レマセヌガ、是ハ先刻産業別ト云フ文字ハ、自ラ社會ノ時運ノ變遷ニ伴ヒ意味ガ變ル

ト云フコトヲ申上ゲマシタガ、一例ヲ申シマスレバ、昔ハ絲ヲ紡グ者ダケガ一ツノ會社、一ツノ經營トナツテ居ッタノガ、今ハ絲ヲ紡グ者モ織ル者モ、紡績ト云フ一ツノ産業ニナツテ居リマス、又鐘淵紡績ノ如キ、紡績業ト一緒ニ染色マデ經營シテ居リマス、或ハ外國ノ如ク絲ヲ紡グ器械マデモ一ツノ會社組織ノ下ニ經營スルヤウニナルカモ知レマセヌ、ソレド、其時ノ社會事情ニ依テ、産業別ト云フ文字ヲ常識的ニ解釋シテ行キマスレバ、其産業ニ從事シ居ル者デアルト云フコトハ、常識上差別ハ困難デナカラウト考ヘテ居リマス

○山本委員 少シ言葉ガ足りナイノデ、質問ノ趣旨ヲ誤解セラレタヤウニ思フ、私ガ最後ニ御尋シタノハ、個々ノ組合員ガ果シテ同一ノ産業若クハ職業ト云フコトニ付テ疑問ヲ申上ゲルノデハナイ、同一若クハ類似ノ産業若クハ職業ト云フ文ハ極テ明白デアッテ、組合ガ前ニ在ル其個々ノ人ニ就テ果シテソレガ同一ノ産業ニ從事シテ居ル人デアアルカ否ヤト云フコトヲ、個々ノ人ニ就テ調査スルノハドウ云フ風ニシテアルカ、是ハ同一若クハ類似ノ職業ニ從事シテ居ナイ者デモ、組合ニ這入ッテ居ル、之ヲ政府ガ嚴重ニヤルト、紙一枚デ組合ノ設立ガ出來ヌト云フ有様ニナル、其點ニ付テドウ云フ御考ヲ持ッテ居ルカ伺ヒタイ

○長岡政府委員 個々ノ人ニ付キマシテノ調査ハ仰セノ通り困難デアラウト考ヘマス、是ハ例ニ引クノモ如何デゴザイマスケレドモ、御承知ノ通り元ト集會結社條例デ、各政黨ニ名簿ヲ備ヘテ黨員ノ移動ガアッタトキニ一々訂正シロト云フ規定ガアッタノデアリマスガ、實際サウ云フコトハ行ハレ難イ、政黨員ノ加入脱退ト云フコトハ、隨分時ニ依テハ頻繁デアリマスカラ、政黨事務所ニ黨員ノ名簿ヲ備ヘテ之ニ加入脱退ノ整理ヲ命ジテ、制限ヲ付ケルト云フヤウナコトハ、實際ニ於テ煩雜デ實行ガ出來ナカッタノデアリマス、隨ヒマシテ、集會結社條例ヲ廢メテ治安警察法ニ代リマシタトキモ、黨員名簿ト云フヤウナ規定——黨員異動ニ依ル名簿ノ訂正ト云フヤウナ此規定ヲ、治安警察法ハ削除シテ居リマス、サウ云フヤウナ事デアリマスカラ、此組合ニ付テモ個々ノ組合員加入脱退ト云フヤウナ事ニ對シテ、嚴重ニ取締ルト云フコトハ、是ハ私ハ餘程困難デアラウト考ヘテ居ル、併シ十四條デゴザイマシタカ、十二條デゴザイマシタカ、規定ガゴザイマス通り、曾テ同一又ハ類似ノ産業ニ從事シテ居ッタ者、之ガ失業シテモ無論組合カラ脱退スル必要ハナイノデアリマスカラ、組合ニ留ッテ居ッテ宜シイ、又其當時産業ニ從事シ、曾テ同一又ハ類似ノ産業ニ從事シテ居ッタ者ガ、組合ノ決議ニ依テ加入スルコトガ出來ル、又其勞働ニ經驗ナキモノモ加入出來ルノ

デアリマスカラ、若シ其勞働者以外ノ者デモ、而モ組合ガ其加入ヲ喜ビ、決議スルト云フトキニハ、組合ノ決議ヲ以テ異種ノ勞働者——以外ノ者デモ加入ヲ決議スルコトガ自由デアリマスカラ先ヅ此點ヲ以テ御心配ノ點ハ幾分緩和出來ルデアラウト考ヘテ居リマス

○山本委員 私ノ御尋シタノハ最初組合ニ這入ッテ居ッテ、最初ハ同一ノ職業若クハ産業ニ從事シテ居ッテ、其後他ニ轉ジタト云フヤウナ場合ヲ御尋シタノデハアリマセヌ、又最初カラ許サレテアル他ノ職業ニ從事シテ居ル場合ヲ御尋シタノデモアリマセヌ、又最初カラ同一又ハ類似ノ産業若クハ職業ニ從事シテ居ナイ者ガ、組合ニ加入シテ居ッテモ、之ヲ取締ルコトガ困難デハナイカ、餘リニ嚴重ニ之ヲ實行スルコトニナレバ、此法律ノ有難味ガナクナルデハナイカト云フ趣旨ヲ御尋シタノデアリマスガ、其點ハ重ネテ御尋シナイコトニ致シマス、ソレカラ聯合體ノ問題デアリマスカ、之ハ再三問題ニナッタノデアッテ、ドウモ政府ノ御説明ヲ承ハリマシテモ了解スルニ苦シム、別ニ揚足ヲ取ッテ御尋スルノデアリマセヌガ、農商務省案ニ致シテモ、憲政會案ニシテモ、革新俱樂部案ニシテモ、又他ノ案ニシテモ、聯合體ト云フコトガ認メラレテ居ッタノデアリマス、外國ノ立法例ヲ見マシテモ、其例外ハ見當ラヌノデアリマス、ソコデ此法案ノ立法ノ趣旨トシテ、政府ノ

御説明ハ色ニナッテ居リマスガ、併ナガラ一括シテ申上ゲルト云フト、只今鈴木君ガ御説明ニナッタ通り、勞働者ノ團結ヲ公認スルノデアアル、サウシテ勞働者ノ團體運動ヲ容易ニスルト云フコトガ本案ノ立法趣旨デアアル、ト云フコトニ歸著スルト思フノデアリマスガ、斯様ナ説明ヲ承ハルト云フト、私尙更聯合體ヲ除カレタ趣旨ヲ知ルニ苦シムノデアリマス、若槻サンノ説明ニ依リマスルト云フト、勞働者ト云フモノハ個別々ニ孤立シテハ洵ニ微力ナモノデアル、之ガ團結シテ初メテ資本家ト對等ノ位置ニ立ツコトガ出來ルノデアアル、其團結ヲ公認シ、團體運動ヲ容易ニスルガ爲ニ本案ヲ立案シタノデアアル、斯ウ云フ御説明デアリマス、此點ニ付テハ、政府委員ノ御説明ハ總テ一致シテ居ルノデアリマスガ、左様ニ致シマスルト云フト、個々別々デハ微力デアアル、孤立シテハ微力デアテ團結シテ初メテ力ヲ爲スモノデアアル、其團結、結果ト云フコトヲ助成スルノガ本案ノ趣旨デアルト云フ事デアリマスレバ、此個々ノ小サイ團體ヨリモ、更ニ聯合體トナッテ、大キナ團體ヲ一層保護スル必要ガアルノデハナイカ、團結力ヲ保護スル、公認スルト云フ趣旨カラ出發シテ居ルモノトスレバ、小サイ組合、小サイ團體ヨリモ、寧ロ大キイ團體、聯合體ヲ公認シ、之ガ法律ノ恩典ヲ受ケサセルト云フコトノ規定ヲ設ケテ、初テ立案ノ趣旨ガ達セラレル

モノデハナイカト考ヘルノデアリマスカ、其點ニ付テハ本會議以來多數ノ質問ガアリ、多數ノ御答辯モアッタノデアリマスガ、御答辯ヲ承ハルト益私疑問ヲ深クスルノデアリマスガ、政府ニ於キマシテ、私ノ只今申上ゲタ趣旨ガ穿キ違ヒデアアル、左様ナ御答辯ガアリマスルナラバ承ハリタイト思ヒマス

○長岡政府委員 山本君ノ議論ハ決シテ穿違ヒト考ヘテ居リマセヌ、先程來鈴木參與官カラ申上ゲタヤウニ、ソレモ實ニ尊重スベキ一ツノ御議論ト存ジマス、是ハ物モ見方ニ依リ、話モ言ヒ方ニ依ルノデアリマシテ、聯合體其モノニ重キヲ置クカ、或ハ今申上ゲマシタ利害關係ヲ共通ニシテ居ル一ツノ法人ト云フモノ、單位ニ重キヲ置クカト云フマデノ見方デアリマシテ、今日日本勞働總同盟、其他有力ナ團體モアリマスガ、又聯合體ニ依ラズシテ一ツノ單一組合トシテ、諸地方ノモノヲ支部トスルト云フヤウナ遣方ノ所モアリ、英國ノ勞働組合會議ノ如キモ是ハ一ツノ聯合體デハナクシテ、其單位ハ別ニ在リ、即チ英國ノ勞働組合會議ハ、單純ナル事務打合せ機關ニ過ギナイト云フヤウナ例モアルノデアリマスルカラ、必ズシモ聯合ト云フモノガ單位ニナラナケレバナラヌト云フコトヲ強ク主張スル理由モナイカノヤウニ考ヘマス、兎モ角モ本法ハ個人ヲ單位トスル組合ヲ目的トシテ、總テノ法制ヲ整フノデア

リマスノデ、此個人ヲ單位トスル組合ト性質ヲ異ニシテ居リマスル組合ヲ、聯合體ノ單位ニ法制ヲ改メルコトモ如何デアラウカ、先日來大臣及鈴木參與官カラ御説明申上ゲタ趣旨ヲ繰返スニ過ギマセヌケレドモ、是等ノ意味合ニ於テ聯合團體ト云フモノハ、決シテ是ハ輕視シテ居ルノデモ何デモナイ、寧ロ法ニ於テハ聯合團體アルコトヲ間接ニ暗示シテ居ルノデアリマスガ、之ニ法人ノ資格ヲ與ヘルノハ、此法制ノ立法方ノ上ニ於テ適當デナカラウト云フ單純ナ考ニ過ギナイノデアリマス

○山本委員 其次ニ御尋致シタイノハ、第三條ノ法人ノ問題デアリマス、是モ前日來再三質問ガアリマシタガ、政府ノ御答辯ヲ承ハリマシテ、立法ノ趣旨、政府ノ御考ダケハ了解スルコトガ出來タノデアリマス、之ヲ工場其他實際ニ付テ考ヘルト云フト、尙ホ私一ツノ疑問ガアルノデアリマス、ソレハ外デモアリマセヌガ、御承知ノ通りニ日本ノ勞働團體ト云フモノハ、殆ド資産——財產ト云フモノヲ持タナイ、持ッテ居ッテモ極メテ少額ノモノデアアル、ソコデ法人タル資格ヲ與ヘテ貰ッテ、權利義務ヲ與ヘルコトガ出來ルト云フ便宜ヲ圖ッテ貰ヒタイト云フコトハ、固ヨリ多クノ財產ヲ持チ、或ハ事業ノ經營ヲ許サレルト云フヤウナ團體デアリマスレバ、此條文ハ大ニ有難味ガ付ク譯デアリマスガ、今日ノ日本ノ勞働團體ノ現

狀カラ考ヘマスルト云フト、此法人タル資格ヲ與ヘテ貰フト云フコトガ、大シタ特典ニハナラナイモノト、實際現狀ニ考ヘマシテ、左様ナコトガ言ヒ得ルト思フノデアリマス、是ハ理窟ノ問題デハアリマセヌ、實際サウ云フコトニナルト思ヒマス、寧ロ反對ニ法人タル資格ヲ與ヘテ貰ヒマス結果、分割スル際、合併スル際、解散スル際ニハ、隨分面倒ナ手續ヲ取ラナケレバナラヌ、殊ニ法人デアル關係上、解散ノ場合ニハ、民法ノ法人、商法ノ會社等ト同様ニ、清算手續ヲシナケレバナラヌ、清算ト云フコトハ中々厄介デアル、之ヲ合法ニヤルト云フコトハ今日ノ日本勞働團體ノ實際實情カラ考ヘマス、輕カラヌ負擔デアラウト思フノデアリマス、デアリマスルカラ、此法條ヲ現在ノ日本ノ勞働團體ト云フコトニ著眼シテ考ヘマス

ト云フト、此法人タル資格ヲ與ヘテ貰フト云フコトガ有難イト考ヘルヨリ、寧ロ有難クナイト考ヘル者ガ多數デアラウト思フノデアリマス、殊ニ十五條トノ關係ヲ見マスルト云フト、組合ニ取ッテハ甚ダ不便デアル、十五條ノ他人ニ加ヘタル損害賠償ノ責任デアルガ、是ガ法人デナケレバ損害賠償ノ責任ヲ果スト云フコトハ、隨分困難ナ問題デアリマスガ、法人デアルガ爲ニ、却テ組合ニ對スル損害賠償ノ請求ガ容易ニ行ハレルト云フコトニナリマシテ、寧ロ法人タル規定アルガ爲ニ、他ノ法文ト

ノ對照上、寧ロ日本ノ勞働團體ハ之ヲ喜バナイモノデハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、ソコデ外國ノ立法ニ依リマスト云フト、佛蘭西ダケハ強制的ニ法人主義ヲ執ッテ居ルヤウデアリマスガ、其他ノ國ニ於キマシテハ、法人タルト法人タラザルトハ、組合ノ自由ノ選擇ニ委セル、斯ウ云フコトニナッテ居ル、政府ガ屢聲明セラレル通りニ、此法案ノ立法趣旨ガ勞働者ノ便宜ヲ圖ルト云フモノデアルナラバ、寧ロ外國ノ立法例ニ倣ッテ、法人タルト法人タラザルトハ、其團體ノ自由ニ委セルト云フコトニシテ、初テ團體ノ便宜ヲ圖ルスルガ、之ヲ強制的ニ法人ニスルト云フコトニナリマス、寧ロ今日ノ實情カラ申上ゲマスレバ、之ヲ不便トスル者ガ多イト考ヘルノデアリマスルガ、他ノ法條トノ關係上、乃至日本ノ現狀ニ照シマシテ、政府ハドウ云フ御考ヲ持ッテ御出ニナルノデアリマセウカ、更ニ念ノ爲ニ御同致シマス

○長岡政府委員 只今ノ問題ニ付キマシテハ、先程鈴木參事官ヨリ申上ゲマシタ通りデゴザイマシテ、趣旨ニ於キマシテハ私カラ申上ゲルコト、全ク變リハナイノデアリマスガ、法人ニナル爲ニ如何ナル不便ガアルカト云フ點ヲ考ヘマス、先ヅ主ナルモノハ三ツアラウト考ヘマス、第一ハ登記ノ手續ガ面倒デアルト云フコト、第二ハハ解散其他ノ場合ニ於キマシテ清算ノ手續ガ面倒デアルト云フコト、法人デアリマス、民法四十四條ノ損害賠償ノ規定ガアルガ爲ニ、不利益ヲ受ケル場合ガアルト云フ、此三ツノ點ガ法人トナッテ不利益ヲ被ル主ナル點ト考ヘマスケレドモ、此登記ニ付キマシテ、本法案ニ於テハ囑託等ノ制度ニ於テ單簡ナル手續ヲ執ル、尙ホ其登録稅ヲ免除致シテ居リマスルシ、清算等ニ付テモ分割併合等ノ場合ニハ、是亦民法ノ例外規定ヲ設ケテ居ルシ、損害賠償ニ付テモ、普通ノ商取引ニ依テ法人ガ他人ニ損害ヲ與ヘタルハ別ト致シマシテ、同盟罷業ニ依テ雇傭者ニ與ヘタ損害ニ付テハ、賠償ノ責任ガ無イコトヲ明ニシテ居ルガ爲ニ、法人ニナッタ爲ニ、非常ナル不利益ヲ受ケルコトハナカラウカト考ヘマス、之ニ反シテ法人デアルガ故ニ、組合ノ財産ナリ其他第三者ニ對スル權利義務ヲ明ニスル利益ガ非常ニ多イノデアル、現在ニ於テモ、多クノ財産ヲ持ッテ居ル勞働組合ハ、民法ノ煩瑣ナ手續ヲ忍ンデモ、尙ホ且ツ法人ニナッテ居ルモノガアル、例ヘバ澤山ノ資金ヲ持ッテ居リマスル海員協會ノ如キ、或ハ左程資金ハ持ッテ居リマセヌガ、横廠工友會ノ如キ、是等ハ民法ノ煩瑣ナル手續ヲ忍ンデモ、尙ホ且ツ法人ニナッテ居リマスルノデ、是ハ組合ノ財産ヲ保護スル上ニ於キマシテ、法人組織ニ致シマセヌト、非常ナ不利益ガアルカラデアリマス、幹部ノ變ル度ニ、登記ノ手續其他色々ナル財産ノ名義變更ト云フヤウナ煩瑣ナ手續ヲ要スルノデ、現在ニ於テモ財産ヲ持ッテ居ル大キナ組合ハ、民法ノ煩瑣ナ規定ニ依テ尙ホ且法人ニナッテ居ル譯デアリマスカラ、法人ニナルト云フコトハ、組合ノ權利義務ヲ明ニシ、尙ホ財産ヲ保護スル上ニ於テ、組合ノ爲ニ決シテ不利益トハ私ハ考ヘテ居リマセヌ、唯之ヲ強制致シマシタナラバ、無論是ハ迷惑デアリマセウカ、併ナガラ先程山本君ノ御質問ニ對シテ御答致シマシタヤウニ、是ハ決シテ此法ニ依ルコトヲ強制致シテ居リマセヌカラ、法人ニナルノ面倒ダ、好マナイト云フヤウナ小サイ組合ハ、恐クハ此組合法ニ依テ法人ニナルコトハ好マナイコトガ生ジテ來ルカモシレマセヌ、併ナガラ法人トナッテ自分ノ財産ヲ保護シタイ、權利義務ノ關係ヲ明ニシタト云モノハ、進ンデ勞働組合法ニ據ル組合トナルダラウト考ヘテ居リマス、前ノ社會局ノ私案ノ事ハ、恐縮ニ存ジマスカラ、其事ハ詳シク申上ゲマセヌガ、其私案ニハ總テノ勞働組合法ニ據ラセルト云フコトニナッテ居リマシタカラ、勞働組合ガ法人ニナルトナラザルトハ、是ハ自由ニシテ置キマシタケレドモ、只今政府ノ提出シタ法律案ニハ、此法ニ據ルモ據ラザルモ、自由ト云フコトニナッテ居リマス、隨テ法人ニナルナラヌノ選擇ノ自由ハ組合デアリマスカ

ラ、原則トシテハ社會局案トノ間ニハ、大キナ變革ガ行ハレタヤウニ見エマスケレドモ、前ノ案ニ於テハ、組合ハ必ズ此案ニ據レ、之ニ據ラズシテ屈出ラシナイ場合ニハ處罰スルト云フコトニシテ、無理ニ此組合法ニ入レヤウト致シマシタカラ、法人トルモセザルモ自由デアルト云フ建前ヲ執リマシタ爲ニ、是ハ是デ又主義ガ一貫シテ居ルト思ヒマス、所ガ只今提出ノ法案ハ、此組合法ニ據ルト據ザルトハ自由デアアル、併ナガラ據ル者ハ法人ニナルト云フヤウナコトニシマシタカラ、是モ亦是デ主義ガ一貫シテ居ルト考ヘマス、其間ニ大シタ矛盾ハナイヤウニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○山本委員 私只今強制的ト云フヤウナ言葉ヲ使ッタカラ、多少誤解ヲ招イタカト思ヒマスガ、勿論總テノ團體ガ此法律ノ適用ヲ受ケナケレバナラナイト云フコトヲ強制シテ居ルモノトハ考ヘテ居ラナイガ、苟モ此法律ノ適用ヲ受ケヤウトスレバ、必然的ニ法人ニシナケレバナラス、此意味ニ於テ強制的ト云フ言葉ヲ使ッタノデアリマシテ、其點ニ於テハ何等ノ誤解ガナイノデアリマス、私ノ見ル所デハ、現在ノ日本ノ勞働團體ト云フモノハ、財産ヲ持タナイ、若クハ持ッテ居ッテモ極メテ僅カナモノデアアル、デ尙ホ此法律ニ據テ、組合ガ營利的ノ事業ヲ行フコトヲ明ニ認メテ居ラヌノデアアルカラ、法人トナッテ權利義務ノ主體タル資格ヲ與ヘテ貰ッテモ、多クノ有難味ヲ感ジナイデアラウ、有難味ヲ感ジナイト云フコトデアレバ、自然此法律ノ適用ヲ受ケヌト云フコトニナリマシテ、折角斯様な立法ヲシテモ、其實益ガ舉ラナイデハナイカ、斯ウ云フ趣旨デ御尋シタノデアリマシテ、強制的ト云フ言葉ヲ使ッタノハ、總テノ團體ニ此法律ノ適用ヲ強制スルト云フ意味デハナイノデアリマス、ソレカラ以上ハ意見ノ相違デアラウト思ヒマスカラ、重ネテ此問題ニ付テハ御尋ヲ致シマセヌ、次ニ御尋致シタイノハ十三條ノ問題デアリマス、十三條ニハ「組合員ノ脱退ニ關シ不當ナル條件ヲ定ムルコトヲ得ス」、斯ウ云フ規定ガアルノデアリマス、是ハ意見ノ相違ニナルカモ知レマスガ、實際問題トシテ考ヘマシテモ、斯様な規定ヲ設ケル必要ハナイノデハナカラウカ、勿論其條件ガ法律ノ目カラ見テ不當デアリマス以上ハ、保護ヲ受ケナイコトハ當然デアリマス、御承知デモアリマセウガ、今日家主ガ借家人ニ對シテ明渡ノ際ニ、敷金ヲ割引スルト云フ契約ヲ致シマシテモ、是ハ法律ノ保護ヲ受ケラレナイ、斯ウ云フコトニナッテ居リマスカラ、不當ノ條件ガ法律ノ保護救済ヲ受ケラレルカ受ケラレヌカト云フコトハ、是ハ一般ノ法理ノ解釋ニ一任シテ安心シテ可ナリト思ヒマス、然ルニ態々此條文ヲ設ケルト、此條件ガ不當デアルヤ否ヤト云フ

コトヲ行政官ガ決定スルノデアリマスカラ、勞働團體ニ取ッテハ少カラヌ脅威ヲ感ズル、一々其條件ヲ退ケテ、一般法理カラ考ヘテ不當ナル條件ニアラザル條件ヲモ、尙且ツ行政官ノ見解ニ依テ、斯様な條件ハ不當ナル條件デアアルカラ、是ハ除クガ宜イ、斯ウ云フ結果ニナリマス、勞働團體ノ方カラ申シマス、脱退ニ關シテハ殆ド何等ノ條件ガ定メラレナイト云フ窮竄ナモノニナリマシテ、勞働者ソレ自身ノ自由意思ヲ拘束スルト云フ結果ニ陷ルノデハナカラウカ、斯様な考ヘルノデアリマス、若シ茲ニ何等カノ條文ノ必要アリト致シマスレバ、寧ろ外國ノ立法ニ倣ッテ、斯ノ如キ條件ヲ附ケテハイケナイト云フ條件ヲ明示スル條文ヲ除イテ、團體ソレ自身ノ自由デアアル所ノ斯様な規定ニ致シマスレバ、大シタ弊害モナカラウカト思ヒマスガ、斯様な抽象的ノ空漠タル文字ヲ以テ、勞働團體條件ニ對スル一ノ制限ヲ加ヘルト云フコトハ、勞働者ニ取ッテ少カラヌ苦痛デアアルマイカト考ヘマス、私ハ本來ノ考ト致シマシテハ、寧ろ斯様な條文ハ置カズシテ、其條件ハドウデアアルカト云フコトハ、是ハ一般法理ノ觀察ニ一任シテ置イテ安心ナモノデアアルト思フノデアリマスガ、特ニ斯様な條文、殊ニ外國ノ立法ニ倣ハズシテ、斯様な抽象的ノ一範圍ヲ廣ク解シ得ル條文ヲ御設ケニナッテ御趣意ハ何所ニ在ルカ、御尋致シマス

○長岡政府委員 只今御説ハ洵ニ御尤ト考ヘマス、私ハ決シテ山本君ノ御所見ニ對シテ反駁ヲ加ヘルト云フ意味デ申上グルモノデハアリマセヌデ、提出シタル理由ヲ申述ベルニ過ギナイノデアリマスガ、若シ私ノ申上グルコトガ議論メイテ御聽取リデアリマシタナラバ、其點ハ御許ヲ願ヒマス、十三條ニ於テ大體豫想シテ居リマスノハ、所謂組合ニ加入シタ以上ハ、絶對ニ脱會ヲ禁ズルトカ、或ハ組合員ノ脱會ノ際ニ非常ニ巨額ノ違約金ヲ徴收スルト云フ規定ヲ、組合ノ規約ニ設ケルト、是ハ中個人ノ自由ヲ束縛シテ、面白カラヌ結果ヲ生ズル虞ガアル、ソレヲ承知ノ上デ入會シタラ宜イデヤナイカト云フコトハ、一ノ考ヘ方デアリマスガ、兎ニ角斯カル不當ナル規約ヲ設ケルト云フコトハ、是ハ社會上面白クナイ、併ナガラ御承知ノ通り十三條ノ違反ニ對シマシテハ、格別制裁ノアル譯デモ何デモゴザイマセヌ、只今御話ノ通り十八條ノ規定ニ依リマシテ、行政官廳ガ變更ヲ命ズルト云フ譯デアリマスカラ、行政官廳ト云フモノハ、抑非常識ノモノバカリデアアル、總テ無茶苦茶ノ事ヲヤルモノデアアルト云フコトデアラナラバ、是ハ別トシマシテ、大體其行政官廳ガ常識上サウ云フ不法ナ變更ヲ命ズルコトハナイトハ考ヘマスケレドモ、若シ其點ニ付テ御懸念ガアリマスレバ、大體通牒其他ニ依リマシテ、此不當ナ條

件ト云フモノヲ例示致シマシテ、地方長官ガ非常識ナル變更ヲ加ヘナイヤウニ致サセル監督ノ途ハ付キ得ルト考ヘマスカラ、此十三條ニ依リマシテ行政官廳ガ不法ヲ取扱フ致スト云フ誤解ハ御氷解アラシコトヲ希望スル次第アリマス

○山本委員 先般來政府側ニ於キマシテハ、此法案ハ勞働者ノ團體ノ力ヲ助ケル、其便宜ヲ圖ル爲ニ立案シタモノデアルト云フ大體ノ説明ガアリマシテ、然ラバ如何ナル點ガ團體ノ利益ヲ圖ルノデアアルカト云フコトニ對シテハ、屢時ヲ變ヘ所ヲ變ヘテ説明サレテ居リマス、併ナガラ此政府ノ御答、只今モ鈴木君カラ御答ニナツテ居リマスガ、此御答ト云フモノハ、恐ラク此間ニ對スル答デナクシテ、問フ者ト答フル者トノ間ニ著シイ距離ガアルノデアラウカト、私ハ聞イテ居リマシテ左様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、質問スル側ニ於キマシテハ、凡ソ此組合法ノ用語ト致シマシテハ、勞働者ノ利益ト申シマスレバ、自ラ一定ノ意義ガアルト解シテ居ルノデアリマス、ソレハ第一ニハ團體行動ニ對スル保護デアリマス、詳細シク申シマスレバ、團體交渉權、團體協約權ノ確認デアアル、第一ニハ之ヲ指スノデアアル、第二ニハ財産上ノ保護デアリマス、詳細シク申シマスレバ、財産稅デアル、或ハ收得稅トカ、又ハ印紙稅、登録稅、是等ノ税金ノ免除、若クハ或一定

ノ營利事業ヲ營ムコトガ出來ル、一括シテ申シマスレバ、財産上ノ利益ノ保護、第二ニハ組合加入ノ保護デアアル、是等ノモノヲ指シテ、組合法ノ用語ト致シマシテハ、勞働者ノ利益ト云フ言葉ヲ使フノガ普通ノ用語ニナツテ居ルト思フノデアリマス、此用語例ニ從ッテ質問スル人ハ、本法ニ於ケル勞働團體ノ利益ト云フモノハ少シモ加ハラヌデハナイカト云フ問ニ對シテ、政府ノ御答ハ、イヤ之ヲ法人トシテ置クト云フコトハ、即チ勞働團體ノ利益ヲ圖ラツモノデアアル、便宜ヲ圖ラツモノデアルト云フ御答デアリマスルガ、是ハ洵ニ白バクレタ御言葉デアリマス、組合ヲ法人トスルト云フコトハ、必ズシモ實質的ニ考ヘマシテ、必ズシモ便宜ヲ圖リ利益ヲ圖ラツモノト申スコトハ出來マセヌ、唯ソレガ便利デアリ、利益デアルト云フコトハ、手續上ノ問題デアリマス、人格ヲ持ツカ持タザルトカト云フコトハ、手續上ノ意味合ニ於キマシテ、或ハ便利ニナルコトモアルデアリマセウ、併ナガラ多數ノ質問者ノ問ハントスル勞働者ノ利益ト云フモノハ、大體ニ於テ只今私ガ申シマシタ三點ニ歸著スルト思フノデアリマス、團體行動ニ對スル保護、ソレカラ財産上ノ保護、ソレカラ組合加入ノ保護、之ニ歸著スルト思フノデアリマスガ、此團體行動ニ對スル保護ハ別ノ法案ヲ作ル考デアアル、將來作ル考デアアル、其時期ハ

分ラナイト云フヤウナ政府ノ御答デアリマス、左様ナ御答デアリマシテ、少クトモ此提案ノ中ニハソレハ現ハレテ居リマセヌ、唯僅ニ私ガ只今申上ゲマシタ實質上ノ利益トデモ申シマスルカ、登録稅ノ免除ダケシカナイト思フノデアリマスガ、之ニ致シマシタ所ガ、民法ノ法人モ矢張登録稅ハ免除シテ居リマス、ソレデアリマスカラ、寧ロソレ等ノ權衡上此規定ガアルノデアッテ特ニ此勞働團體ニ對シテ利益ヲ圖ル實質上ノ規定トシテ設ケラレタモノト見ルコトハ出來ナイト云フ風ニモ見ラレシテモ、矢張登録稅ヲ免除セラレマスカラ、獨リ此法案ニ限ッテ特典ヲ受ケルト云フノデアハナイ、團體行動ニ對スル保護ハ、他ノ法案デ以テ別ニ提出ストル言ハレ、又財産上ノ利益ニ付キマシテハ、只今申上ゲマシタヤウニ、僅ニ此三ツニ過ギナイ、最後ニ組合加入ノ保護ニ付キマシテハ、第十四條ノ規定ガアリマス、第十四條ノ規定ガアリマシテモ、之ニ罰則ガナイカラ、之ニハ眞ニ法律ノ力ハ與ヘラレテ居ラヌ、斯業ナ結果ニナツテ居ルノデアリマスガ、政府ニ於キマシテハ只今マデ御答辯ニナツタヤウナ、サウ云フ形式上ノ便宜、手續上ノ便宜トデモ申シマスルカ、左様ナモノ以外ニ實質的ノ普通ノ用語例ニ從テ勞働者ノ利益ヲ生ズルモノ、私只今大體説明致シマシタガ、一カラ三マデ

ノ是等ノ事ニ付テハ、此法案ニ少シモ現ハレテ居ラヌノデアリマスガ、矢張何等カ政府ハ此法律デ以テ、只今私ノ申シタヤウナ點ニ觸レテ利益ガ圖ラレト云フヤウナ御考ガ、此法案ノ中ニ籠ッテ居リマスカ、私ノ見落シカモ知レマセヌガ、私ハ全然圖ッテ居ナイモノト考ヘマスガ、ソレハ誤解デアルト云フコトデアリマスレバ、此際御説明ヲ願ヒタイ

○長岡政府委員 只今ノ御質問ニ對シマシテ御答申上ゲマス、同ジヤウナ事ヲ再三繰返シテ、貴重ナル時間ヲ費スコトハ甚ダ恐縮ニ存ジマスガ、前ニ御答申シタ御質問ニ對シテ、多少重複スルコトガ生ズルカモ知レマセヌガ、極メテ簡單ニ申上ゲマス、其點ハ何卒御宥恕ヲ願ヒタイノデアリマス、只今山本君ノ御舉ゲニナリマシタ團體交渉權及勞働協約、若クハ團體協約ト云フ問題ニ付キマシテハ、昨午午後詳細ニ申上ゲタ積リデアリマスガ、團體交渉ト團體協約ト云フコトハ、其觀念上區別シテ考ヘタイト思ヒマス、勞働組合ハ交渉ノ相手方トシテ勞働組合ヲ確認サセルト云フ、團體交渉ニ關スル要求ト團體交渉ノ結果團體協約ニナル場合ガアル、又團體協約ニナラヌ場合モアル、又ソコニ何物モ生レナイコトモアリ、又ソレ以外ノモノガ生レテ來ルコトモアルノデアリマス、團體ニ對シテハ禁止スルコトハナク、大體ニ於テ國

家ガ之ヲ認メ、其勞働團體ノ團體行動ヲ認メルモノデアルト云フコトヲ申上ゲマシタ以上ハ、組合ガ當事者トシテ認メルト云フコトハ、先ヅ團體ノ精神ノ上カラ認メラレタモノト云フテ差支ナイト思ヒマス、唯團體協約ニ付キマシテハ、昨日モ申上ゲマシタヤウニ、日本デハ唯一ツシカ例ガナイ、之ニ對シテ急ニ法案ヲ制定スル必要モナイト思ヒマス、又制定スルトスレバ、社會局ノ元ノ私案ハ此第十二條デアアルガ、是ダケデハ不十分デアアル、又法制ノ系統カラ言ヒマシテモ、團體協約ニ關スル法律トハ別ニ規定致スノガ、是ガ普通デアアルト云フコトカラ、是レノ研究ハ後日ニ譲リマシタ次第デ、團體協約ニ關スルコトヲ全然否定スル譯デハナイノデアリマス、其點ニ付テハ大體御諒承願ヒタイト思ヒマス、第二ノ財産上ノ問題デアリマスガ、營利事業ヲ認メナカッタト云フコトガ、稍御反對ヲ招イテ居ルヤウニ考ヘマスガ、日本ノ勞働者ナリ團體ナリヲ能ク御觀察下サレバ、此法案ノ趣旨ガ明ニナルノデアリマス、勿論營利事業ヲナシテ利益ヲ得ルコトガアリマス、併ナガラ商賣ト云フモノハ、利益ヲ得ルコトバカリデナシニ損ヲスルコトモアルノデアリマス、勞働團體ガ折角組合員ノ積立テタ金ヲ、營利事業ヲ爲シテ損害ヲ受ケタ爲ニ費消シテシマフト云フコトモ想像シ得ルノデアリマス、只今ノ其

實例ニ付テ申上グルコトハ略シテ置キマスガ、勞働組合ガ營利的事業ヲ爲シタコトハ今マデ多々アリマス、例ヘバ大阪邊リノ友禪工組合デアルトカ、小樽ノ靴工組合ト云フヤウナモノガ、此營利的事業ヲ營ンダコトガアリマスガ、皆失敗ニ歸シテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク今日迄ノ經驗ニ依リマシテハ、營利的事業ヲヤッタ爲ニ、其組合ノ基金ニ損害ヲ及シタコトガアッタノデアリマシテ、是モ見方ニ依ルト營利的事業ヲ認メナイト云フコトハ、却テ財産上ノ保護ニナルモノト思ヒマス、尙ホ加入ノ自由ニ付テ保護ガ不十分デアルト云フヤウナ御懸念モゴザイマシタガ、今其實例ヲ調べテ見ルト、例ヘバ或ル工場ニ於キマシテハ、雇傭條件トシテ、其工場ニ這入ル時ニ誓約書ヲ取リマシテ、職工ヲ雇フ所モアルノデアリマス、其誓約書ニハ、將來勞働團體ニ加入致サズ候萬一勞働團體ニ加入シタル時ハ如何ナル處分ヲ受ケテモ差支ナイト云フヤウナ意味ノ誓約書ヲ取ツテカラ、職工ヲ雇フト云フ所モ現ニアリマス、是等ノモノニ對シテハ、此保護規定ハ少クトモ實際ノ效力ハアルマイ、要スルニ個々ノ條文ニ付テハ山本君モ御不滿デアリマセウ、其他ノ方々ニ於カレマシテモ御不滿ハアリマセウガ、此個々ノ規定ト云フモノハ無論考慮ノ中ニ加ヘナケレバナリマセヌケレドモ、併ナガラ此法案全體ノ空氣ト云フモノハ保

護ヲ爲スモノデアアル、少クモ社會ノ一部ニハ勞働組合ニ加入スルコトヲ惡視スルト云フヤウナ者モ、是ハ全然ナイノデアリマス、無論サウ云フヤウナ人多數アル譯デハゴザイマセヌケレドモ、所ニ依リマシテハ勞働組合ヲ毛嫌ヒスルト云フコトモアルヤウニ思ヒマス、之ニ對シテ私ノ觀察ガ間違デアリマシタナラバ、御詫ビ致シマスケレドモ、併ナガラ社會ノ一部ニハ勞働組合ヲ兎角好マナイ——是ハ少シ宜シカラスト思ヒマス、又連判狀云々ト云フコトヲ私ガ申シタコトガ過ギマシタナラバ、言葉ヲ改メマスガ、兎ニ角勞働團體ヲ毛嫌ヒスルヤウナ思潮ガ社會ノ一部ニハ少クモアルヤウニ見受ケラレル、之ニ對シテ少クモ國家ガ勞働組合ト云フモノハ、即チ法制ニ於テ公認シタモノデアアル、其勞働組合ノ維持改善ヲ圖ルモノハ、是ハ適法デアルト云フコトヲ明ニスル爲ニ認メタ次第デアアル、是ガ勞働組合ニ對シテノ財産ヲ初メ全般ノ保護ニナリハシナイカ、即チ個々ノ條文ニ付テ申上ゲレバ色々アリマスガ、ソレ以外ニ勞働組合ノ外ニ保護セラレル團體ノ利益ト云フモノヲ達觀シテ御覽下サレタナラバ、先ヅ不完全ナガラ私ノ申上ゲタコトハ御諒承願ヘルモノト思ヒマス

○山本委員 只今政府委員カラ御説明ガアリマシタガ、個々ノ點ニ付テハ不滿モアラウガ、大體カラ達觀シテ此法律ノ有難味ヲ味ツテ吳レト云フコトデアリマシタガ、私モ此法案ニ付テ大體ノ達觀モ致シマシタガドウモ、實質的ニ考ヘテ見テ、是ガ勞働團體ニ對シテ有難味ノアル法案デハナイト思ヒマス、斯様ニ申シマスルト、政府ニ於テハ決シテ此法律ヲ強制スルノデハナイ、之ニ從ハントスル者ハ從フガ宜イ、從ハザル者ハ從ハヌデモ宜イ、是ガ此法案ノ妙味デアアル、斯ウ云フ御説明デアッタト思ヒマスガ、私共先程申シマシタヤウニ、ドウモ此勞働者ノ利益ヲ保護サレテ居ラヌト思ヒマス、甚ダ失禮デアアル、斯様ナモノヲ有難ガル所謂信者ハ少ナイト思ヒマス、然ラバ其有難屋ダケ這入ツタ宜イト云フ御説明デアリマスガ、左様ナ事デアレバ寧ロ利益ノ無イモノデアルト思フ、是ハ本會議ニ於テ清瀬君モ申シマシタガ、一度之ヲ制定スルト是ガ改廢ヲナスノハ容易ナラヌモノデアアル、ソコニハ種々ナル事情ガアルノデアリマス、佛造ッテ魂入レズ、魂ノナイモノヲ御造リニナルト、ソレガ爲ニ却テ弊ヲ起スヤウナ立法ニナルト云フ結果ニナルノデアリマス、是ハ寧ロ政府委員ニ御尋スルコトデハナク、私ノ意見ヲ申上ゲタコトニナリマスガ、之ニ對シテハ別ニ御答辯ハ要リマセヌ、此點ニ對シテハ十分御考慮ヲ願ヒタイト考ヘマス、多數ノ質問者モアルヤウデアリマスカラ、私ハ是デ打

切リマス

○森田委員長 御諮リ致シマスガ、次ハ藏園三四郎君ノ質問ノ順序ニナッテ居リマス、所ガ藏園君ハ陸海軍大臣及外務大臣ノ出席ヲ御請求ニナッテ居リマスシ、今日ハ大分勉強致シマシタカラ、本日ハ此程度デ打切ルコトニ致シマシテ、明日ハ午前十時カラ開會致シマス
午後四時十一分散會